【1C4F212】ボランティア実践	幼児教育学科		1～3年通年	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	光井　恵子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	活動参加活動及び振り返りの実施		
到達目標	知識・理解	社会の課題に気付き、適切に判断・行動することができる。	○
	思考・判断・表現	学びの集積を自覚し、統合し活用することができる。	○
	技能	さまざまな価値観に対応できる柔軟性を身につける。	○
	関心・意欲・態度	社会に貢献する使命感と責任感をもって、積極的に行動することができる。	◎

授業内容	地域及び学内で行われる社会活動やボランティア活動に参加をし、振り返りを行う。情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う。主体的・対話的で深い学びを促進する状態での学修を積極的に行い、ICTを活用した双方向型授業や自主学習支援等も必要に応じて実施する。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
提出物(ポートフォリオ)	10	10	10	40	70
レポート	10	10	10	-	30
合　計(点)	20	20	20	40	100

評価の特記事項	ポートフォリオの提出とレポートで評価する。
ＩＣＴ活用	Google Classroomを活用し、社会活動に情報等を配信していく。
課題に対するフィードバック	活動後のレポート及び振り返りにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行う。
テキスト	『なし』
参考書・教材	必要に応じて配布

内容	
実施回	授業内容・目標
1	3年間において、下記のいずれかの社会活動及びボランティア活動に30h以上参加をする。かつ、その活動におけるポートフォリオの提出と総合的にまとめたレポートの提出で単位を認定する。 (1)地域や学内で行われる行事や活動への参加 (2)県や市町村、各種団体が主催する行事へのボランティア参加 (3)保育園等をはじめとする施設等での保育技術の発表

時間外での学修	社会活動演習の種類によって、事前準備・学修が必要になってきます。詳細については、担当教員より連絡があります。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	社会活動に積極的に参加することによって、大学で学ぶ知識や技術を統合し、主体的・協同的な姿を備えた保育者になることを目的としています。活動によって担当者が異なりますので、オフィスアワーの時間帯については、アカデミックアドバイザーに尋ねて下さい。

【1C1A107】保育の研究	幼児教育学科		3年後期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	名和　孝浩		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	主に反転授業による学生の授業発表		
到達目標	知識・理解	保育研究の手法と現在の研究的知見や研究的課題を知る。	◎
	思考・判断・表現	子どもの行為や保育内容を分析的に考察し、実践につなげようとする。	◎
	技能	保育を分析的に捉えるための手法を扱おうとすることができる。	○
	関心・意欲・態度	自身の関心のある領域について、探求的に学修できる。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育の本質の理解をさらに深めるとともに、保育研究に触れることで、探求的な保育の視点を養う。 保育の目的が何であるのか、その目的を達成するための実践のあり方について、分析的な視点を育て、検証する手立てを考える。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
研究レビュー発表	20	20	10	-	50
レポート課題	10	20	10	10	50
合　計(点)	30	40	20	10	100

評価の特記事項	研究レビューは保育研究に関する論文の理解度、資料作成能力、発表内容から評価する。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	学生発表に対して教員・学生からの質疑応答やコメントを行う。
テキスト	
参考書・教材	『保育所保育指針解説書（厚生労働省版）平成30年』フレーベル館 『教育要領と保育指針　幼稚園教育要領解説（文部科学省版）平成30年』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府版）平成30年』フレーベル館

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション 〔課題（予習）〕今回の授業で参考となるよう、これまで実践した保育内容についてまとめる（4h）
2	保育における研究的視座を考える 〔課題（予習）〕保育に関する研究論文を調べる（4h）
3	保育における研究的手法 〔課題（予習）〕保育に関する研究方法について調べる（4h）
4	反転授業による保育研究に関する論文レビュー①（各自課題を基に準備をする） 〔課題（予習）〕保育に関する研究論文を調べ、レジメにまとめる（4h）
5	反転授業による保育研究に関する論文レビュー②（各自課題を基に準備をする） 〔課題（予習）〕保育に関する研究論文を調べ、レジメにまとめる（4h）
6	反転授業による保育研究に関する論文レビュー③（各自課題を基に準備をする） 〔課題（予習）〕保育に関する研究論文を調べ、レジメにまとめる（4h）
7	反転授業による保育研究に関する論文レビュー④（各自課題を基に準備をする） 〔課題（予習）〕保育に関する研究論文を調べ、レジメにまとめる（4h）
8	反転授業による保育研究に関する論文レビュー⑤（各自課題を基に準備をする） 〔課題（予習）〕保育に関する研究論文を調べ、レジメにまとめる（4h）
9	反転授業による保育研究に関する論文レビュー⑥（各自課題を基に準備をする） 〔課題（予習）〕保育に関する研究論文を調べ、レジメにまとめる（4h）
10	反転授業による保育研究に関する論文レビュー⑦（各自課題を基に準備をする） 〔課題（予習）〕保育に関する研究論文を調べ、レジメにまとめる（4h）
11	反転授業による保育研究に関する論文レビュー⑧（各自課題を基に準備をする） 〔課題（予習）〕保育に関する研究論文を調べ、レジメにまとめる（4h）
12	反転授業による保育研究に関する論文レビュー⑨（各自課題を基に準備をする） 〔課題（予習）〕保育に関する研究論文を調べ、レジメにまとめる（4h）
13	反転授業による保育研究に関する論文レビュー⑩（各自課題を基に準備をする） 〔課題（予習）〕保育に関する研究論文を調べ、レジメにまとめる（4h）
14	これまでの保育研究をまとめる（各自課題を基に準備をする） 〔課題（予習）〕保育に関する研究論文を調べ、レジメにまとめる（4h）
15	総括 〔課題（予習）〕これまでのレジメをまとめる（4h）

時間外での学修	保育現場での研究主題や研究の方法など予備知識をもち、発表者は事前に資料作成と発表内容をまとめることが求められます。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	本授業は、学生の積極的な参加が求められます。学生らしいエネルギッシュな姿で参加し、自己や他者の保育実践についての理解を深め、研究的に実践を省察していく力を身につけてほしいと考えます。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー（H211、水曜日昼休み0）を活用してください。

【1C3A206】保育内容「表現」の指導法Ⅱ	幼児教育学科		3年前期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	立崎　博則・光井　恵子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	前半は分野ごとに表現活動を行い、後半は総合的な表現活動を中心に授業を展開します。		
到達目標	知識・理解	領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容を理解し、自らの表現を説明できる。	◎
	思考・判断・表現	幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育表現の重要性を理解し、自らの表現を追求できる。	◎
	技能	領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し保育表現に活用することができる。	○
	関心・意欲・態度	領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し保育表現に活用することができる。	△

授業内容	保育表現について総合的な技能を身につけ、主体的・対話的な保育表現の展開や指導法を学ぶ。 身体の動きや五感、音やリズム、ものの色や形や質感など様々な表現のツールを活用し、表現活動の応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動の実践指導力を身につけていく。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	10	10	-	-	20
作品・発表	-	20	20	-	40
ポートフォリオ	20	10	-	10	40
合　計(点)	30	40	20	10	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	プリントのふりかえりを授業で行います。また、発表時にコメントをします。
テキスト	
参考書・教材	必要な資料は授業で配布します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション 指導法Ⅰからの流れ 保育表現の展開について [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
2	〈音楽・身体表現〉各分野でそれぞれ視覚教材等を使って、現場の表現発表やプロの演劇から表現を学ぶ。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
3	〈音楽・身体表現〉各分野でそれぞれ視覚教材等を使って、現場の表現発表やプロの演劇から表現を学ぶ。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
4	〈造形表現〉各分野でそれぞれ視覚教材等を使って、現場の表現発表やプロの演劇から表現を学ぶ。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
5	〈造形表現〉各分野でそれぞれ視覚教材等を使って、現場の表現発表やプロの演劇から表現を学ぶ。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
6	保育表現の実践・基礎 劇またはシアターの作成1 テーマを選び、物語と作品の制作を行い、発表する。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
7	保育表現の実践・基礎 劇またはシアターの作成2 テーマを選び、物語と作品の制作を行い、発表する。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
8	保育表現の実践・基礎 劇またはシアターの作成3 テーマを選び、物語と作品の制作を行い、発表する。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
9	保育表現の実践・基礎 劇またはシアターの作成4 テーマを選び、物語と作品の制作を行い、発表する。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
10	保育表現の実践・基礎 劇またはシアターの作成5 テーマを選び、物語と作品の制作を行い、発表する。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)

内容	
実施回	授業内容・目標
11	保育表現の実践・基礎 劇またはシアターの作成6 テーマを選び、物語と作品の制作を行い、発表する。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
12	保育表現の実践・基礎 劇またはシアターの発表 テーマを選び、物語と作品の制作を行い、発表する。 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
13	保育表現の実践・基礎 劇またはシアターのまとめ 劇またはシアターの制作と発表を振り返る [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
14	保育表現の実践・展開 劇制作に向けて ・希望分野調査 ・制作の進め方について ・分野ごとに分かれて活動・制作2 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)
15	保育表現の実践・展開 劇制作に向けて ・イメージを集める、登場人物と場面の確認 [課題(準備)]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。(1h)

時間外での学修	表現活動をするにあたって（準備）道具、環境、アイディアなどを事前に整理し子ども達に伝えたいこと（目的）をもって受講してください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	表現を通して子ども達に何を伝えたいか日々考えていきましょう。 オフィスアワー：立崎：（H201）金曜　昼休み、光井：（A307）木曜日　16:10～16:40

【1C3S114】在宅保育	幼児教育学科		3年後期	
	2単位	選択	講義	30時間

教員	大橋　淳子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	大橋:幼稚園教諭、保育士・28年		
授業方法	講義とグループワーク在宅保育の保育者としての資質を高めるために、自分なりに考える場面指導やグループワークに参加するなどの方法も取り入れて授業を行います。		
到達目標	知識・理解	在宅保育とは何かを様々な視点から考えることができる	◎
	思考・判断・表現	在宅保育に必要な知識や技術を学び、今後に生かす	◎
	技能	在宅保育の有効性と今後の課題について、自分なりの考えをもち、課題について考えていくことができる	△
	関心・意欲・態度	様々な子育て支援を知り、在宅保育や保育に生かすことができる	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	“在宅保育”とは、専門的知識と技術を兼ね備えた保育者が、「乳幼児の生活の基盤である家庭」で行う保育のことです。この授業では、在宅保育における基礎知識や必要な技術を学ぶとともに、家庭支援とは何かについて理解を深めます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
最終試験	30	10	-	-	40
レポート	-	20	10	-	30
受講態度	10	-	-	20	30
合　計(点)	40	30	10	20	100

評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	フィードバックとして課題やレポートにコメントを返します。
テキスト	『家庭訪問保育の理論と実際　第2版　居宅訪問型保育基礎研修テキスト・一般型家庭訪問保育学習テキスト 第3版』公益社団法人全国保育サービス協会　中央法規(3,080円)ISBN:978-4-8058-5849-3
参考書・教材	明橋大二『子育てハッピーアドバイス』、佐々木正美『子どもへのまなざし』

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション、・在宅保育とは何かを知り、認定ベビーシッターになるための手順を学ぶ(子ども・子育て新制度の中で)・保育者として身につけたい保育マインドについて [課題(準備)]これまで学んできた子育て支援についてまとめ、在宅で保育するとは何かを考える。（2h～4h)
2	居宅訪問型保育の概要、　・訪問型保育の発展経緯、位置づけについて理解する。・特徴を知り、保育所との共通点や相違について理解する。 [課題(復習)]居宅訪問型保育の利点とをコロナ禍での課題をまとめる。（2h～4h)
3	居宅訪問型保育の概要Ⅱ、・子ども子育て新制度の概要、居宅訪問型保育事業について理解する。 [課題(復習)]居宅訪問型保育の有効性と課題をまとめる。（2h～4h)
4	乳幼児の生活と遊び、　・DVDを視聴して発達・成長過程に応じた子どもの生活や遊びの関わり方や援助方法について理解する。　・子どもの一日の生活の流れの中で、居宅訪問型保育者の役割について理解する。 [課題(復習)]居宅訪問型保育における生活活動の大切さと居宅訪問型保育者の役割を理解する。（2h～4h)
5	乳幼児の発達と心理、　・乳幼児期の発達ポイントを学び、発達に応じた遊びや安全性、子どもの発達を支える居宅訪問型保育者　の役割について理解する。 [課題(復習)]乳幼児期に身に付けることや話せない年齢の子どもとのコミュニケーションの取り方についてまとめる。（2h～4h)
6	乳幼児の食事と栄養、　・離乳の進め方に関する最近の動向について理解する。　・食物アレルギーや保育者がおさえる食育のポイントについて理解する。 [課題(予習・復習)]離乳食の意味、おやつの役割、子どもの食べる機能の発達をまとめる。（2h～4h)
7	小児保健Ⅰ、・DVDを視聴して子どもの病気を知り、その予防や対応について理解する。・検診や母子手帳の意義、記載に内容や予防接種について理解する。 [課題(復習)]居宅訪問型保育における乳幼児の健康観察の仕方や子どもの健康と安全を守れるような知識についてまとめる。(2h)
8	小児保健Ⅱ、・DVDを視聴して子どもの事故を知り、その予防や対応について理解する。・事故予防と対応について学ぶ。 [課題(復習)]居宅訪問型保育における乳幼児の安全を守ることができる対策をまとめる。（2h～4h)
9	小児保健Ⅱ、・DVDを視聴して子どもの事故を知り、その予防や対応について理解する。・事故予防と対応について学ぶ。 [課題(復習)]居宅訪問型保育における乳幼児の安全を守ることができる対策をまとめる。（2h～4h)
10	居宅訪問型保育における環境整備、・居宅での保育環境の基本的な考え方と配慮事項について理解し、必要な設備・備品を確認し、自己点検を行えるようにする。 [課題(予習・復習)]保育環境の整備をする上で、保護者へ確認や連携の必要性と具体的な事項とその内容をまとめる。（2h～4h)
11	居宅訪問型保育の運営、・DVDを視聴して居宅訪問型保育者の職務について理解し、情報提供の方法、受託前の利用者と面接、記録や報告の管理などについて学ぶ。・事業者及びコーディネーター等との連携や居宅で保育を行う訪問型保育者の姿勢について理解する。 [課題(復習)]訪問型保育事業の運営の流れや役割をまとめる。（2h～4h)
12	安全の確保とリスクマネージメントと子ども虐待、・保育環境上起こりうる危険について学び、予防策や安全確保の留意点や事故が起こった場合の対応や報告について理解する。・子どもの虐待の定義やたいおうについて理解する。 （2h～4h)[課題(予習・復習)]居宅訪問型保育における具体的な事故予防のポイントと配慮事項についてまとめる。

内容	
実施回	授業内容・目標
13	居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項と保護者への対応、・居宅訪問型保育者としての基本姿勢や居宅訪問型保育者の自己管理、地域住民との関係づくりなどについて理解する。　居宅訪問型保育における保護者への対応、、必要な知識と技術や家族との関わりにおける配慮等について理解する。 [課題(復習)]居宅訪問型保育の子育て支援が目指すものを理解し、保護者との関わり方についてまとめる。（2h～4h)
14	特別に配慮を要する子どもへの対応と保育技術、・障害の特徴とその対応について理解する。・居宅訪問型保育での具体的な対応について学ぶ。 [課題(復習)]在宅保育における生活の世話やかかわり方をまとめる。復習・課題をまとめてレポートを作成する。（2h～4h)
15	保育技術（お世話・遊び編）と一般型家庭訪問保育、・居宅での乳幼児の生活と遊びについて具体的な内容をイメージし、援助方法を学ぶ。家庭訪問保育者が行う保育の流れを理解する。 [課題(復習)]在宅保育における生活の世話やかかわり方をまとめる。復習・課題をまとめてレポートを作成する。(2h)

時間外での学修	家庭で保育する場面を想定し、子どもと何をして過ごすかを、自分なりにイメージしてみてください。また、質の高いベビーシッターとは何かを自分なりに模索してみてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	昨今では、在宅での保育においても、専門的な知識や技術を兼ね備えた保育者を必要としています。ただ子どもを危険のないように見るのではなく、子どもの心身の成長を支えていける在宅保育を目指していきましょう。オフィス・アワーは、大橋研究室(H205)で毎週木曜日の昼休みです。

【1C3A216】保育内容総論	幼児教育学科		3年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	名和　孝浩		
資格・制限等	幼免・保資必修		
実務家教員			
授業方法	反転授業やグループワークなどを通して総合的な観点から学び、保育の全体像を掴む。		
到達目標	知識・理解	領域ごとの関連性を学び、乳幼児期の発達の特性を理解する。	○
	思考・判断・表現	総合的な観点で子どもを捉える力を養い、保育者としてとして思考力や判断力、表現力の基礎を培うことができる。	◎
	技能	子ども理解を基にした実践的な援助をするための保育技能を習得する。	◎
	関心・意欲・態度	自らが理想とする保育者像を描き、自己研鑽を努めることができる。	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育内容の歴史と意味について理解したうえで、保育内容を総論として学ぶことにより、領域ごとの関連性を考え、乳幼児の発達の特性から総合的な観点で子どもを捉える力を養い、環境や遊びを通した指導・援助が行える知識や技能を身につけ、保育者としての実践的能力を習得する。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
発表	10	20	10	10	50
レポート	10	20	20	-	50
合　計(点)	20	40	30	10	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	毎時間授業コメントの共有や助言、質疑応答などをすることでフィードバックする。
テキスト	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館 ISBN:9784577814499
参考書・教材	保育所保育指針解説（厚生労働省版）フレーベル館 幼稚園教育要領解説（文部科学省版）フレーベル館

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション：受講のねらい・内容の説明と発表グループの設定 〔課題（予習）〕幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読み込んでおく（3h）
2	ガイドラインに基づいた保育の基本及び目標 〔課題（予習）〕保育園・幼稚園・こども園における保育の基本及び目標について調べる（3h）
3	ガイドラインに基づいた保育及び教育の計画と実践 〔課題（予習）〕保育園・幼稚園・こども園における計画と実践について調べる（3h）
4	健康に関するねらい及び内容と保育の実践：反転授業による学修のプレゼンテーション 〔課題（予習）〕発表用PPの作成と印刷資料の準備（3h）
5	人間関係に関するねらい及び内容と保育の実践：反転授業による学修のプレゼンテーション 〔課題（予習）〕発表用PPの作成と印刷資料の準備（3h）
6	環境に関するねらい及び内容と保育の実践：反転授業による学修のプレゼンテーション 〔課題（予習）〕発表用PPの作成と印刷資料の準備（3h）
7	言葉に関するねらい及び内容と保育の実践：反転授業による学修のプレゼンテーション 〔課題（予習）〕発表用PPの作成と印刷資料の準備（3h）
8	表現に関するねらい及び内容と保育の実践：反転授業による学修のプレゼンテーション 〔課題（予習）〕発表用PPの作成と印刷資料の準備（3h）
9	乳児の保育に関するねらい及び内容と保育の実践：反転授業による学修のプレゼンテーション 〔課題（予習）〕発表用PPの作成と印刷資料の準備（3h）
10	遊びを通した総合的な学び①：主体的で対話的で深い学びを引き出す保育の考案 〔課題（予習）〕保育における主体的で対話的で深い学びについて調べる（3h）
11	遊びを通した総合的な学び②：ICTを活用した保育の考案 〔課題（予習）〕ICTを活用した保育実践について調べる（3h）
12	遊びを通した総合的な学び③：協同的な活動による子どもの育ち：ゲスト講師 〔課題（予習）〕現場での協同的な活動と捉えられた場面をまとめておく（3h）
13	遊びを通した総合的な学び④：積み木による協同的な活動の体験的学修：ゲスト講師 〔課題（予習）〕園での積み木遊びの実践について調べる（3h）
14	幼児期に育ってほしい10の姿をとらえる視点：DVD視聴によるグループワーク 〔課題（予習）〕幼児期に育ってほしい姿について調べる（3h）
15	総括：今後の保育の展望と課題 〔課題（予習）〕今までのレポートや配付資料をまとめる（3h）

時間外での学修	反転授業では各グループが発表用のPPと印刷資料を事前に準備すること。 保育を学ぶ学生として、普段から子どもを観察したりかかわったりする機会を積極的にもち、発達と結びつけて考えるようにすること。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	保育内容総論は保育を総合的に捉えていくために重要な授業になります。1つの保育実践へと結びつけていくために、今まで各科目で学んだ内容をしっかりと振り返っておきましょう。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー（H211、水曜日昼休み）を活用してください。

【1C3S217】子育て支援	幼児教育学科		3年前期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	今村　民子・澤口　智子		
資格・制限等	保資必修		
実務家教員			
授業方法	前半：演習と講義。後半：講義形式。授業のテーマに沿った小課題を毎時行います。グループディスカッション、ビデオ視聴なども取り入れる予定です。		
到達目標	知識・理解	子育て支援の理念と概念を理解することができる	◎
	思考・判断・表現	様々なケースに対応できる柔軟さとコミュニケーション能力を身につけることができる	◎
	技能	保護者の考え方・学び方などの多様性を理解し、支援方法を具体的に示すことができる	○
	関心・意欲・態度	子育て支援の考え方と役割を理解し、自分なりの保育観	○

授業内容	子育てについて気軽に相談できる人が少なくなっている現代において保育者は相談しやすい存在として求められています。そこで保育者が行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解します。保育者が行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例をみながら具体的に理解します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	30	30	20	-	80
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	30	30	20	20	100

評価の特記事項	テーマごとに課題を出し、レポートを提出します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	授業の最初に模範の課題レポートを紹介して評価のポイントを示します。
テキスト	授業時にプリントを配布します。
参考書・教材	「保育所保育指針」フレーベル館　「幼稚園教育要領」フレーベル館　「幼保連携型認定こども園教育保育要領」フレーベル館　「子育て支援ー15のストーリーで学ぶワークブックー」（株）萌文書林　「子育て支援―「子どもが育つ」をともに支える―」北樹出版　その他授業中に紹介します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1（今村民子）	授業のオリエンテーション、進め方、評価の説明して授業の概要を知る。 ［課題］（復習）今日の資料を整理する。授業概要を確認して興味を持つ内容を決める。（1h）
2（今村民子）	子育て支援の意義：子育て支援の制度的な基盤を理解する。子育て支援が求められている社会的背景を把握して、保育所・認定こども園などが果たす役割について知る。 ［課題］（復習）今日の資料を整理する。子育て支援が求められる制度基盤や社会的背景について関心を持ったことをまとめる（1h）
3（今村民子）	子育て支援の基本的価値・倫理：保育所保育指針と保育士倫理綱領により、子育て支援の価値・倫理について理解する。 ［課題］（復習）今日の資料を整理する。（1h）
4（今村民子）	地域子育て支援の現状と課題について：地域の子育て支援マップを作成して、利用する保護者の立場を理解する。 ［課題］（復習）今日の資料を整理する。住んでいる市町の子育て支援について調べまとめる。（1h）
5（今村民子）	地域子育て支援施設における支援：地域子育て支援施設を利用する保護者の気持ちを知り、地域の保護者と関わる際にとるべき姿勢を習得する。 ［課題］（復習）今日の資料を整理する。子育てサロンの内容を知って保護者支援の方法の理解をまとめる。（1h）
6（今村民子）	行事などを活用した子育て支援：保護者が参加する行事について理解する。保護者懇談会実施について計画、実施してみる。 ［課題］（復習）今日の資料を整理する。保護者参加の行事に関心を持つ。保護者懇談会の方法を知る。（1h）
7（今村民子）	文書を活用した子育て支援1：さまざまな種類の文書があることを知って、保護者向けの文章の書き方の基本を習得する。連絡帳に記載する文書を書いてみよう。 ［課題］（復習）今日の資料を整理する。保護者向けの文書への注意点を確認する（1h）
8（今村民子）	文書を活用した子育て支援2：さまざまな種類の文書があることを知って、保護者向けの文章の書き方の基本を習得する。クラスのおたよりを作成しよう。 ［課題］（復習）今日の資料を整理する。研修園にあるおたよりなどの文書の内容を調べる。（1h）
9（澤口智子）	子どもの保育とともに行う保護者の支援：保育士の行う子育て支援の特性について確認する。 ［課題］（復習）今日の資料を整理する。子育て支援についてこれまでに学んできたことを確認する。（1h）
10（澤口智子）	保護者との相互理解と信頼関係の形成：保護者との信頼関係形成に向けた姿勢について理解する。 ［課題］（復習）今日の資料を整理する。保護者とかかわる際に意識したいことをまとめる。（1h）
11（澤口智子）	支援ニーズへの気付きと多面的な理解：現代社会における子育て家庭の状況について振り返り、保護者や家庭の抱える支援ニーズを把握する。 ［課題］（復習）今日の資料を整理する。子育て家庭の保護者が支援を要する場面にはどのようなものがあるかを振り返る。（1h）
12（澤口智子）	保育士として子育て支援を行うための自己理解・他者理解：自他の価値観の違いや、他者を理解するということについて考える。 ［課題］（復習）今日の資料を整理する。授業の中で生じた気持ちや考えをまとめる。（1h）
13（澤口智子）	子育て支援のプロセス（1）：子育て支援の基本的な流れや職員間・関係機関との連携および協働について学ぶ。 ［課題］（復習）今日の資料を整理する。子育て支援の流れについてまとめる。居住地域の子育て支援に関する機関を調べる。（1h）

内容	
実施回	授業内容・目標
14（澤口智子）	子育て支援のプロセス（2）：事例に基づいて子育て支援の展開を確認し、支援に必要な視点を考える。 ［課題］（復習）今日の資料を整理する。子育て支援を行う際に必要な視点や姿勢について振り返る。（1h）
15（澤口智子）	保育士の行う子育て支援のまとめ：保護者に向き合う姿勢や子育て支援の方法について振り返る。 ［課題］（復習）今日の資料を整理する。後半の授業の内容と、学びの中で感じたことをまとめる。（1h）

時間外での学修	みなさんが住んでいる地域の子育て支援について関心を持ち、自ら調べたりして学修しましょう。【この科目に求める望ましい授業時間外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	子育てをする保護者に関心を持ちましょう。子育ての楽しみや大変さを深く感じ取ることができるようにしてほしいと思います。多くの事例の中から保育の幅を広げ、専門的な技術を身につけるよう努力しましょう。オフィスアワー：H204研究室毎週金曜日16：20～17：00

【1C3A220】保育総合表現	幼児教育学科		3年後期	
	2単位	必修	演習	60時間

教員	光井　恵子・垣添　忠厚・立崎　博則・川村　香織		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	グループごとに題材（ストーリー）や役割を決め、上演にむけて計画的に進めていきます。それぞれの進行状況を確認するために中間発表を行います。		
到達目標	知識・理解	子どもの成長過程に応じた遊びや表現を劇づくりの中で活用し、その指導や支援の方法がわかる	△
	思考・判断・表現	自らが楽しみながら作品を創る中で、豊かな感性と表現力を養い、味わった喜びや達成感を子ども達に伝えられる保育者を目指すことができる	◎
	技能	自らの言動を振り返り、新たな方法や手だてを考えながら、音楽表現・身体表現・造形表現を融合してひとつの作品を創り上げることができる	◎
	関心・意欲・態度	誰とでも柔軟に関わりながら、ひとつの作品を創り上げることができる	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育現場における即戦力として、専門的な技術を身につけるとともに実践指導力を養うことを目的としています。自分たちで幼児の想像力や情操を高めるための題材を求め、そのお話のイメージを広め、幼児に相応しい創意ある表現を試みながらひとつの劇を創り上げていきます。その成果を舞台で上演します。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	10	10	-	-	20
役割の成果	-	25	20	-	45
発表	-	-	20	-	20
受講態度	-	-	-	15	15
合　計(点)	10	35	40	15	100

評価の特記事項	全ての評価項目で授業の取り組みが大きく関わります。欠席せずに積極的に参加することが必要です。レポートの評価は、授業の記録、最終課題で行います。
ＩＣＴ活用	必要に応じて劇制作の中で、音楽や編集に必要なアプリを使用していきます。
課題に対するフィードバック	随時、授業の中で学生の質問等に対応します。また、授業の記録にコメントをしていきます。
テキスト	なし
参考書・教材	必要に応じて配付します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	劇づくりの進め方、上演までの取り組みを説明 発声練習 [課題(準備)]各自が劇全体のレイアウトを確認してくる（2～3h）
2	題材(ストーリー）を各自が把握し、課題を基に劇全体のレイアウトを具体的に確認しながら、劇つくりの準備をグループごとに進める 発声練習 [課題(準備)]台本読み、台詞の確認（2～3h）
3	台詞の読み合わせ等を行いながら、具体的な役作りを行っていく　衣装・大道具・小道具を制作していく 発声練習 [課題(準備)]台本読み、台詞の確認、役作り（2～3h）
4	動きをつけながらの練習、音楽や効果音等を入れていく　衣装・大道具・小道具を制作していく 発声練習 [課題(準備)]台本読み、台詞の確認、役作り（2～3h）
5	動きをつけながらの練習　衣装・大道具・小道具を制作していく　発声練習 [課題(準備)]台本読み、台詞の確認、役作り（2～3h）
6	舞台を使って通しの練習　衣装・大道具・小道具を制作していく　発声練習 [課題(準備)]台本読み、台詞の確認、役作り（2～3h）
7	中間発表1（進行状況を発表し、グループの相互評価を実施） [課題(準備)]台詞の暗記、役作り（2～3h）
8	中間発表でのグループや個人の反省を踏まえ、劇づくりを進める　衣装・大道具・小道具を制作していく　発声練習 [課題(準備)]台詞の暗記、役作り（2～3h）
9	台詞や動きを確実にしていく　衣装・大道具・小道具を制作していく　発声練習 [課題(準備)]台詞の暗記、役作り（2～3h）
10	通し練習　衣装・大道具・小道具を制作完了を目指す　発声練習 [課題(準備)]台詞の暗記、役作り（2～3h）
11	中間発表2（上演と同様に発表し、グループの相互評価を実施） [課題(準備)]役作り（2～3h）
12	通し練習　衣装・大道具・小道具の手直し　発声練習 [課題(準備)]役作り（2～3h）
13	通し練習　衣装・大道具・小道具の手直し　発声練習 [課題(準備)]発表に向けての台詞や動きの確認（2～3h）
14	通し練習　衣装・大道具・小道具の手直し　発声練習 [課題(準備)]発表に向けての台詞や動きの確認（2～3h）
15	通し練習　衣装・大道具・小道具の手直し　発声練習 [課題(準備)]発表に向けての台詞や動きの確認（2～3h）

時間外での学修	幼児が楽しめる内容にするために、常に幼児に相応しい表現方法、音楽、舞台装置等の情報収集とともに、台詞や歌の練習等に努めて下さい。　【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:30時間】

受講学生へのメッセージ	表現に必要な様々な分野（音楽・身体・造形表現）を融合してひとつの劇を創るために、毎時間の積み重ねが重要です。一人ひとりが責任を持って、決められた役割を果たすことが必要です。オフィスアワーの時間は、指導担当教員のオフィスアワーを活用してください。

【1C3A225】保育者のためのピアノⅠ	幼児教育学科		3年前期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	光井　恵子・加藤　有子・佐々　智美・竹内　美樹		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	ピアノ個人レッスンを行います。 担当教員によって教室が異なりますので、しっかり確認をして受講して下さい。		
到達目標	知識・理解	様々なジャンルの曲を触れ、その特徴を理解する。	○
	思考・判断・表現	環境に合わせ、表現力豊かに保育実践をすることができる。	◎
	技能	保育者に必要なピアノの演奏技術を確実に修得するように努める。	○
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	ピアノ個人レッスンです。実務研修での課題や就職試験に向けて十分なピアノの技術を身に付けていきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
発表	15	20	20	-	55
受講態度	-	15	-	30	45
合　計(点)	15	35	20	30	100

評価の特記事項	受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況で評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	毎回授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を提示していきます。
テキスト	『バイエル教則本』 『ブルグミュラー25の練習曲』 『ソナチネアルバム』 等各自が所有する楽譜
参考書・教材	必要な資料は授業で配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	第1週 　授業の説明　オリエンテーション、レベルに合わせた選曲と今後の方針等 ［課題(予習)］次のレッスン曲の予習　(1h) 第2週～第12週 　各自のレベルに合わせたピアノ個人レッスン 　　(正確な譜読み・・・音　リズム　適切な指使い) 　　(様々な表現法・・・強弱　テンポ　ペダリング　フレージング) ［課題(予習・復習)］授業でのアドバイスをもとに復習、次回のレッスン曲の予習（各1h） 第13週 　各自のレベルに合わせたピアノ個人レッスン（発表に向けての課題曲の仕上げ） 　　(正確な譜読み・・・音　リズム　適切な指使い) 　　(様々な表現法・・・強弱　テンポ　ペダリング　フレージング) ［課題(復習)］授業でのアドバイスをもとに復習、課題曲の弾き込み　　(1～2h) 第14週 　グループ発表を行い相互評価をする ［課題(復習)］授業でのアドバイスをもとに復習、課題曲の弾き込み　　(1～2h) 第15週 　発表とまとめ

時間外での学修	保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身に付けていきます。ピアノの練習は毎日行い、積極的に予習・復習に取り組んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	音楽をしっかり学び、その技術を身に付けることは、保育者として指導力に大きく関わります。体調を常に整えて、遅刻・欠席をしないように心がけましょう。 爪はしっかり切っておいてください。 オフィスアワーは光井研究室（A307：A号館3F）で毎週木曜日16:10～16:40です。または各レッスン室で授業終了後に行います。

【1C3A226】保育者のためのピアノII	幼児教育学科		3年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	光井　恵子・小川　寿実子・日比　祐子・竹内　美樹		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	各自のレベルに合わせたピアノの個人レッスンです。 担当の教員によって教室が異なります。しっかり確認をして受講してください。		
到達目標	知識・理解	様々なジャンルの曲に触れ、その特徴を理解し説明することができる。	○
	思考・判断・表現	環境に合わせ、表現力豊かに保育実践や支援ができる。	◎
	技能	保育者に必要なピアノの演奏技術を確実に修得する。	○
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	前期と同様、ピアノ個人レッスンの継続であり、就職試験に向けて十分なピアノの力や、保育現場での即戦力となるように技術を身に付けていきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
発表	15	20	20	-	55
受講態度	-	15	-	30	45
合　計(点)	15	35	20	30	100

評価の特記事項	受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況で評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	毎回授業時に課題の確認を行い、個々に応じた練習方法を提示していきます。
テキスト	『バイエル教則本』 『ブルグミュラー25の練習曲』 『ソナチネアルバム』 他各自の所有する楽譜
参考書・教材	必要な資料は授業で配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	第1週～第12週 　各自のレベルに合わせたピアノ個人レッスン（課題の確認、レベルに合わせた選曲と今後の方針） 　　（正確な譜読み・・・音　リズム　適切な指使い） 　　（様々な表現法・・・強弱　テンポ　ペダリング　フレージング） ［課題(予習・復習)]授業でのアドバイスをもとに復習、次回のレッスン曲の予習(各1h ） 第13週 　各自のレベルに合わせたピアノ個人レッスン（発表に向けての課題曲の仕上げ） ［課題(復習)］授業でのアドバイスをもとに復習、課題曲の弾き込み　(各1～2h) 第14週 　グループ発表を行い相互評価をする ［課題(復習)］授業でのアドバイスをもとに復習、課題曲の弾き込み　(各1～2h) 第15週 　発表とまとめ

時間外での学修	保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身に付けていきます。 ピアノの練習は毎日行い、積極的に予習・復習に取り組んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	音楽をしっかり学び、その技術を身に付けることは、保育者として指導力に大きく関わります。 体調を常に整えて、遅刻・欠席をしないように心がけましょう。 爪はしっかり切っておいてください。 オフィスアワーは光井研究室（A307：A号館3F）で毎週木曜日16:10～16:40です。または各レッスン室で授業終了後に行います。

【1C4A405】保育実習Ｉｂ	幼児教育学科		3年前期	
	2単位	選択	実習	90時間

教員	今村　民子		
資格・制限等	保資必修／GPA並びに既修得科目による制限有り		
実務家教員	笠松町ことばの教室職員5年		
授業方法	児童福祉施設での実習を90時間行います。なお、実習を履修する際、本学または、児童福祉施設で決められた事項を遵守できない場合は、実習を中止することがあります。		
到達目標	知識・理解	養護の一日の流れを理解し、参加する	◎
	思考・判断・表現	子どもや利用者の観察や関わりを通して、ニーズを理解する	○
	技能	生活の援助などの一部分を担当しながら養護技術を習得する	○
	関心・意欲・態度	施設職員のチームワークを理解して、社会人としてのコミュニケーション能力を発揮できる	△
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	児童福祉施設の生活に参加し、子どもたちへの理解を深めるとともに、児童福祉施設の役割や機能と、そこでの保育士の職務について学ぶ。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実習園の評価	25	25	-	-	50
実習に向けての準備	20	-	-	-	20
実習日誌の評価	-	-	20	-	20
実習にあたっての提出物	-	-	-	10	10
合　計(点)	45	25	20	10	100

評価の特記事項	実習に向けての事前準備はオリエンテーションのまとめが必要である。 実習園からの評価票を最も重視して評価をします。 事後の実習日誌提出を忘れないこと。 「保育実習Ｉｂ」を行うにあたって、「実習指導Ｉｂ」を履修しておくことが望ましい。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	自己評価票と日誌をもとにして、施設評価の伝達を個別に行います。
テキスト	『五訂　福祉施設実習ハンドブック』吉村美由紀他 編集　株式会社　みらい(2,100円)ISBN:978-4-86015-481-3
参考書・教材	「実習日誌」は必ず用意すること 『保育所保育指針』フレーベル館　　『幼稚園教育要領』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館 その他、必要に応じて配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
	第１回～第８回 施設実習 （１）観察を中心とした実習 ・実習施設の概要を知る ・子どもの観察や関わりを通して、子どものニーズを理解する。 ・援助計画を理解する。 ・安全に対する配慮、環境整備、清掃の仕方を知る。 第９回～第１５回 施設実習 （２）参加を中心とした実習 ・生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。 ・職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 ・記録や保護者とのコミュニケーション等を通して家庭・地域社会を理解する。 ・子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。 ・まとめを行い、今後の課題を見つける。

時間外での学修	・実習記録をその日のうちに記録・整理し、翌日の計画を立てましょう。
受講学生へのメッセージ	実習には体力が必要です。体調に留意し、自己管理を怠りなく、意欲的に取り組んでいきましょう。 オフィスアワー：H204研究室金曜16:20～17:00

【1C4S207】実習指導Ｉb	幼児教育学科		3年前期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	今村　民子		
資格・制限等	保資必修		
実務家教員	笠松町ことばの教室職員5年		
授業方法	実習の内容を理解するための講義と、実習の進め方、記録の仕方について説明する。実際の事例について討議やレポート、発表を含めた授業方法で進める。		
到達目標	知識・理解	さまざまな福祉施設について理解し、それぞれに応じた保育的配慮について説明できる	◎
	思考・判断・表現	利用者に対し柔軟かつ適切に対応し、その理由や必要性を説明できる	○
	技能	利用者に発達や生活に必要な支援を具体的に示すことができる	○
	関心・意欲・態度	施設で働くさまざまな専門職について理解し、保育士として連携するためのコミュニケーション能力を身につける	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	実習は児童福祉施設等の生活に参加して行います。その実習にあたり、入所している人たちへの理解、施設の役割や保育士の役割についても理解しておくことが必要です。実習はこれまで授業で学んできた知識を実際に福祉施設の中で確かめつつ、体験の中学び直す大切な時間です。この授業では実習をおこなう上での注意点や、実習の具体的進め方などについて学びます。なお実習後の学びについても自己評価につなげた成果を感じることができるようにします。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
課題レポート	30	-	-	-	30
受講態度	-	20	-	-	20
参加の姿勢	-	-	20	-	20
事後の提出課題	-	-	-	30	30
合　計(点)	30	20	20	30	100

評価の特記事項	課題レポートは、事前準備で実習日誌に書きこむ部分を提出します。事後レポートは施設ごとに成果を振り返って作成します。最終課題は各自の振り返りやまとめをします。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	レポートは一人ずつ確認します。実習成果の振り返りは発表する中でフィードバックします。最終課題のフィードバックは、評価伝達とともに行います。
テキスト	『五訂　福祉施設実習ハンドブック』吉村美由紀他編集　株式会社　みらい(2,100円)ISBN:978－4－86015－481－3
参考書・教材	「実習日誌」は必ず用意すること。 『保育所保育指針』フレーベル館　『幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館 『幼稚園教育要領』フレーベル館　『保育者になる人のための実習ガイドブックAtoZ-実践できる！保育所・施設・幼稚園・認定こども園実習テキストー』那須川知子監修、田中卓也他編著、萌文書林 必要な資料はその都度配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	目標:授業内容のオリエンテーション　福祉施設実習とは　テキストSheet1･2･3 実習施設・日程・メンバーを知って、心構え持ち、目的を考える。 [課題（復習）]実習施設の確認をする(1h)
2	福祉施設実習への準備1テキストSheet5･6･7　実習生の立場、心構え、実習施設について。 [課題（復習）]テキストを読んで内容を身につける(1h)
3	福祉施設実習への準備2　実習施設でのオリエンテーションの計画と準備 [課題（復習）]実習施設について詳しく調べてまとめる(1h)
4	福祉施設実習への準備3　実習する施設について各自で調べ内容を知り発表する。 [課題（復習）]施設について理解したことをまとめる(1h)
5	施設別の実習の内容1　児童養護施設での実習について　テキストSheet21　課題とした実習施設のまとめを確認する。[課題（復習）]テキストを読んで内容を身につける(1h)
6	施設別の実習の内容2　障害者支援施設での実習について　テキストSheet26 [課題（復習）]テキストを読んで内容を身につける(1h)
7	施設別の実習の内容3 　障害者福祉サービス事業所・児童発達支援センターでの実習について　テキストSheet27･29 [課題（復習）]テキストを読んで内容を身につける(1h)
8	実習施設でのオリエンテーション 　実習施設へ実際に訪問する。施設の方と面接して具体的な実習内容を知る。課題についてレポートを提出する。 [課題（準備・復習）]（準備）提出書類、交通手段の確認をする（復習）オリエンテーション事後記録をまとめて必ず提出する(2h)
9	福祉施設実習の内容　実習の流れ、参加実習、観察実習の内容　テキストSheet14･15･16 [課題（復習）]テキストを読んで内容を身につける(1h)
10	福祉施設実習の内容　記録の意味、日誌の書き方　テキストSheet18･19 [課題（復習）]テキストを読んで内容を身につける(1h)
11	＜事後指導＞１　実習の反省・実習のお礼状を書く。 [課題（復習）]実習で学んだことを振り返り、まとめる(1h)
12	＜事後指導＞２　実習の反省　各自で実習したこと振り返ってまとめて記録する。[課題（復習）]実習で学んだことを振り返り、まとめる(1h)
13	＜事後指導＞３実習の反省：実習で学んだことなどを施設ごとに発表できるように計画して、内容を整える。[課題（復習）]実習で学んだことを振り返り、まとめる(1h)
14	＜事後指導＞４　実習の反省：報告会１実習施設ごとに成果と課題を発表する [課題（復習）]実習で学んだことを振り返り、まとめる(1h)
15	＜事後指導＞５　実習の反省：報告会２実習施設ごとに成果と課題を発表する [課題（復習）]実習で学んだことを振り返り、まとめる(1h)

時間外での学修	事前指導では、テキストを予習しておきましょう。参考資料やホームページなどで施設の生活について自ら学修して理解し授業に臨むように。質問や疑問点については積極的に研究室を訪ねましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	保育所や幼稚園の実習とは異なる点が多いので、施設の理解や実習の心構え、実習の姿勢などしっかり準備して実習に臨むようにしましょう。オフィスアワー：H204研究室毎週金曜16:20～17:00

【1C4A409】保育実習Ⅲ	幼児教育学科		3年通年	
	2単位	選択	実習	90時間

教員	今村　民子		
資格・制限等	保資選択必修／GPA並びに既修得科目による制限有り		
実務家教員	「笠松町ことばの教室」職員5年		
授業方法	児童福祉施設でのオリエンテーション及び児童福祉施設での実習を２週間行います。 なお、実習を履修する際、本学または、児童福祉施設で決められた事項を遵守できない場合は、実習を中止することがあります。		
到達目標	知識・理解	実習施設の役割や機能について実践を通して理解する	◎
	思考・判断・表現	保育士の職務について具体的な実践に結びつけて理解する	○
	技能	家庭と地域の生活実態にふれて、福祉や養護を理解し、家庭支援のための知識や技術を身につける	○
	関心・意欲・態度	保育士として、教養と社会性を備えた社会人としての自己の課題を明確化する	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	「保育実習Ⅰb」での実習体験を生かして福祉施設で実習を行い、利用している子どもや障害者への援助内容や方法について理解を深め、家族支援のための知識や技術を養う。

観点別評価

評価の観点／評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実習園の評価	20	10	10	10	50
実習に向けての準備	20	-	-	-	20
実習日誌の評価	-	10	10	-	20
実習にあたっての提出物	-	-	-	10	10
合　計(点)	40	20	20	20	100

評価の特記事項	「保育実習Ⅲ」を行うにあたって、「実習指導Ⅲ」を履修しておくことが望ましい。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	自己評価票と日誌を用いて施設評価票を個別に伝達します。
テキスト	『五訂　福祉施設実習ハンドブック』吉村美由紀　他編集　株式会社　みらい(2,100円)ISBN:978-4-86015-481-3
参考書・教材	「実習日誌」は必ず用意すること 『保育所保育指針』フレーベル館 『幼稚園教育要領』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館 その他、必要に応じて配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
	第１回～第８回 施設実習 （１）参加を中心とした実習 ・実習施設の概要を知る ・子どもの観察や関わりを通して、子どものニーズを理解する。 ・援助計画を理解する。 ・安全に対する配慮、環境整備、清掃の仕方を知る。 ・保護者や地域社会との連携のあり方について理解する。 ・自分の課題とテーマについて理解し、その克服と解明に努める 第９回～第１５回 施設実習 （２）部分実習を中心とした実習 ・生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。 ・職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 ・記録や保護者とのコミュニケーション等を通して家庭・地域社会を理解する。 ・子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。 ・まとめを行い、今後の課題を見つける。

時間外での学修	実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。
受講学生へのメッセージ	実習には体力が必要です。体調に留意し、自己管理を怠りなく、意欲的に取り組んでいきましょう。 オフィスアワー：H204研究室毎週木曜16:20～17:00

【1C4S211】実習指導III	幼児教育学科		3年通年	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	今村　民子		
資格・制限等	保資選択必修		
実務家教員	笠松町ことばの教室職員5年		
授業方法	実習の内容を理解するための講義と、実習の進め方、記録の仕方について説明する。実際の事例について討議やレポート、発表を含めた授業方法で進める。		
到達目標	知識・理解	さまざまな福祉施設について理解し、それぞれに応じた保育的配慮について説明できる	◎
	思考・判断・表現	利用者に対し、柔軟かつ適切に対応し、その理由や必要性を説明できる	○
	技能	利用者の発達や生活に必要な支援を具体的に示すことができる	○
	関心・意欲・態度	施設で働くさまざまな専門職について理解し、保育士として連携するためのコミュニケーション能力を身につける	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	実習は児童福祉施設等の生活に参加しておこないます。その実習にあたり、入所している人たちへの理解、施設の役割や保育士の役割についても理解しておくことが必要です。実習はこれまで授業で学んできた知識を実際に福祉施設の中で確かめつつ、体験の中学び直す大切な時間です。この授業では実習をおこなう上での注意点や、実習の具体的進め方などについて学びます。なお実習後の学びについても自己評価につなげた成果を感じることができるようにします。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	30	-	-	-	30
受講態度	-	20	-	-	20
参加の意欲	-	-	20	-	20
提出課題	-	-	-	30	30
合　計(点)	30	20	20	30	100

評価の特記事項	レポートは事前の準備課題と事後の振り返りとまとめがあります。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	授業の最初に模範課題レポートを口頭で全員フィードバックする。
テキスト	『五訂 福祉施設実習ハンドブック』吉村美由紀他編集　株式会社　みらい(2,100円)ISBN:978－4－86015－481－3
参考書・教材	「実習日誌」は必ず用意すること 『保育所保育指針』フレーベル館　『幼稚園教育要領』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館　　その他、必要に応じて配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	授業内容のオリエンテーション　：　施設実習（保育実習I ｂ）で学んだこと、学べなかったこと [課題（復習・予習）]今日の内容の復習と次回の予習をする（１ｈ）
2	保育実習IIIの目標と内容　：　実習生の立場と心構え　各自の実習の目的と課題について [課題（復習・予習）]今日の内容の復習と次回の予習をする（１ｈ）
3	保育実習IIIの事前学修　：　実習施設でのオリエンテーションの計画と準備 [課題（復習・予習）]今日の内容の復習と次回の予習をする（１ｈ）
4	保育士と権利保障１　：　子どもの権利を理解するとともに、自分自身の育ちや価値観を振り返る [課題（復習・予習）]今日の内容の復習と次回の予習をする（１ｈ）
5	保育士と権利保障２　： 施設の置かれている現状を通して、国がどのように子どもを守ろうとしているのかを学ぶ [課題（復習・予習）]今日の内容の復習と次回の予習をする（１ｈ）
6	保育士とソーシャルワーク　： ソーシャルワークについての理解やソーシャルワーカーとの連携について [課題（復習・予習）]今日の内容の復習と次回の予習をする（１ｈ）
7	保育士と地域社会のかかわり　： 保護者への援助、地域社会への働きかけ、他の関係機関との連携について [課題（復習・予習）]今日の内容の復習と次回の予習をする（１ｈ）
8	福祉施設実習の内容１　：　実習の心構え、直前準備 [課題（復習・予習）]今日の内容の復習と次回の予習をする（１ｈ）
9	福祉施設実習の内容２　：　実習の心構え、直前準備 [課題（復習・予習）]今日の内容の復習と次回の予習をする（１ｈ）
10	実習施設でのオリエンテーション　　オリエンテーションの内容をまとめて確認する [課題（復習・予習）]今日の内容の復習と次回の予習をする（1h）
11	実習施設でのオリエンテーション　　オリエンテーションの内容をまとめて確認する [課題（復習・予習）]今日の内容の復習と次回の予習をする（１ｈ）
12	実習の反省　：　実習のお礼状を書く [課題（復習・予習）]今日の内容の復習と次回の予習をする（１ｈ）
13	各自の実習の反省　：　実習報告レポートを書く [課題（復習・予習）]今日の内容の復習と次回の予習をする（１ｈ）
14	施設ごとの実習の反省　：　報告レポートを書く。課題の確認をする。 [課題（復習・予習）]今日の内容の復習と次回の予習をする（１ｈ）
15	実習の反省　：　報告会（発表）課題をレポートにして確認する。 [課題（復習・予習）]今日の内容の復習と次回の予習をする（１ｈ）

時間外での学修	実習には体力が必要です。体調に留意し、自己管理を怠りなく、意欲的に取り組んでいきましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間・15時間】

受講学生へのメッセージ	授業の学修内容は、短期大学生として、また、社会人として基本的に必要な知識や技能であることを認識し学修にのぞんでください。広範囲な講義、演習、体験です。毎回欠席することなく受講してください。 オフィスアワー：H204研究室毎週木曜12：30～13：00

【1C5A201】子育て支援演習	幼児教育学科		3年後期	
	1単位	選択	演習	30時間

教員	今村　民子・大橋　淳子		
資格・制限等	GPA並びに既修得科目による制限有り		
実務家教員			
授業方法	授業はグループに分かれて活動し、子育てサロンなど子育て支援の場に出かけて支援に参加するための準備と実際に子育て支援を体験して、記録や反省で振り返ることを繰り返しながら進めます。		
到達目標	知識・理解	子育て支援の方法や配慮について理解し、子どもの年齢や発達に応じた子育て支援に取り組むことができる	○
	思考・判断・表現	実践の後に振り返り、工夫しながら新たな方法や手立てを考えることができる	◎
	技能	様々な場面に応じた子育て支援や、場面を考慮した環境構成をすることができる	◎
	関心・意欲・態度	社会生活で必要なコミュニケーション能力を身につけ、誰とでも幅広く関わることができる	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育者は地域の子育ち、子育て支援の中心的な役割を担って行くことが期待されています。この授業ではこれまで学んできた、知識や技能を基に子育て支援の現場に学生スタッフとして参加し、サロン運営を手伝い、託児、親子遊びの企画など、子育て支援の実際を体験的に学びます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
試験課題	20	-	-	-	20
レポート	-	30	-	-	30
参加の態度	-	-	30	-	30
事前準備	-	-	-	20	20
合　計(点)	20	30	30	20	100

評価の特記事項	試験課題は、経験したことをふまえた総合的なテーマについてレポート課題を課します。 準備計画書を作成する。事後レポートは内容の記録と考察まとめた「参加記録」用紙を提出する 。 参加の態度は、子育て支援者として参加するのにふさわしい身だしなみと実習する姿勢を評価する。 事前準備では、参加予定を確認してお楽しみ会の準備を行い、意欲的に参加する。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	事後指導の時間に参加記録をもとにして話し合う。
テキスト	
参考書・教材	『保育所保育指針』フレーベル館 『幼稚園教育要領』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館 必要な資料はその都度配付します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	授業内容・目標：授業の概要（授業の進め方、評価の仕方、グループ分け） [課題（復習・準備）]サロン支援者の姿勢について振り返り、次回に備える（１ｈ）
2	授業内容・目標：グループで活動し、準備した保育教材・技術を生かして施設で支援体験をする。 [課題（復習・準備）]お楽しみ会教材準備・事後記録の記入（１ｈ）
3	授業内容・目標：グループで活動し、準備した保育教材・技術を生かして施設で支援体験をする。 [課題（復習・準備）]お楽しみ会の教材準備・事後記録の記入（１ｈ）
4	授業内容・目標：グループで活動し、準備した保育教材・技術を生かして施設で支援体験をする。 [課題（復習・準備）]お楽しみ会教材準備・事後記録の記入（１ｈ）
5	授業内容・目標：グループで活動し、準備した保育教材・技術を生かして施設で支援体験をする。 [課題（復習・準備）]お楽しみ会教材準備・事後記録の記入（１ｈ）
6	授業内容・目標：グループで活動し、準備した保育教材・技術を生かして施設で支援体験をする。 [課題（復習・準備）]お楽しみ会教材準備・事後記録の記入（１ｈ）
7	授業内容・目標：グループで活動し、準備した保育教材・技術を生かして施設で支援体験をする。 [課題（復習・準備）]お楽しみ会教材準備・事後記録の記入（１ｈ）
8	授業内容・目標：グループで活動し、準備した保育教材・技術を生かして施設で支援体験をする。 [課題（復習・準備）]お楽しみ会教材・事後記録の記入（１ｈ）
9	授業内容・目標：グループで活動し、準備した保育教材・技術を生かして施設で支援体験をする。 [課題（復習・準備）]お楽しみ会教材準備・事後記録の記入（１ｈ）
10	授業内容・目標：グループで活動し、準備した保育教材・技術を生かして施設で支援体験をする。 [課題（復習・準備）]お楽しみ会教材準備・事後記録の記入反省（１ｈ）
11	授業内容・目標：グループで活動し、準備した保育教材・技術を生かして施設で支援体験をする。 [課題（復習・準備）]お楽しみ会教材準備・事後記録の記入（１ｈ）
12	授業内容・目標：グループで活動し、準備した保育教材・技術を生かして施設で支援体験をする。 [課題（復習・準備）]お楽しみ会教材準備・事後記録の記入（１ｈ）
13	授業内容・目標：グループで活動し、準備した保育教材・技術を生かして施設で支援体験をする。 [課題（復習・準備）]お楽しみ会教材準備・事後記録の記入（１ｈ）
14	授業内容・目標：グループで活動し、準備した保育教材・技術を生かして施設で支援体験をする。 [課題（復習・準備）]お楽しみ会教材準備・事後記録の記入（１ｈ）
15	授業内容・目標：グループで活動し、準備した保育教材・技術を生かして施設で支援体験をする。 [課題（復習・準備）]お楽しみ会教材準備・事後記録の記入（１ｈ）

時間外での学修	参加する日はグループごとに違うので、あらかじめ計画表を見て確認しておきましょう。 授業の準備（服装や荷物）をしっかりと行い、練習や事前打ち合わせを済ませておきましょう。 授業後は指定の用紙に記録し提出期限を守りましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】

受講学生へのメッセージ	保護者や施設スタッフに対するマナーや挨拶、服装など社会人としての基本的な心得についても注意して臨むこと。グループごとに役割を分担して準備、企画を担当するなど、お互いに協力し合うようにすること。オフィスアワー：担当者研究室毎週木曜12：30～13：00

【1C5A202】保育実務研修Ⅰ	幼児教育学科		3年前期	
	3単位	選択必修	演習	90時間

教員	立崎　博則・光井　恵子・今村　民子・大橋　淳子・垣添　忠厚		
資格・制限等	既修得科目等による制限の場合有り		
実務家教員	大橋：幼稚園教諭28年、垣添：公立学校教諭・18年		
授業方法	保育現場などでの実務研修。		
到達目標	知識・理解	保育実務研修の研修内容について理解し、実践的・社会人基礎力・保育構想力を備えた保育実践力を修得するために必要な知識を身につける。	○
	思考・判断・表現	保育現場での課題や学ぶべき点に気づき、それを分析し判断する。 実務研修に取り組む際の自己のテーマを明確にし、これまでの学びの集積を自覚して成長したことを具体的に挙げることができる。	○
	技能	社会に貢献する使命感と責任感もって、一人ひとりの子ども理解に応じた援助や環境構成ができる。	◎
	関心・意欲・態度	研修に積極的に取組み、事例の集積と多様的視点で記録を作成する。 学内での研修に意欲的に取り組む。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育現場において、保育実務に近い内容で長期研修を行うことによって、実践的研究・社会人基礎力・保育構想力を備えた保育実践力の育成を目的とする。この力を育成するために、実務研修に取り組む際のテーマを明確にもち、事例の集積と多様的視点で実務研修の記録を行う。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実務研修事前事後課題	5	5	5	5	20
研修現場での実践	10	10	20	-	40
実務研修記録の作成	10	10	10	10	40
合　計(点)	25	25	35	15	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	実務研修記録は担当教員が毎回チェックします。
テキスト	
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領ほか必要に応じて配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション・事前指導（学内） [課題（予習）]研修先の園等を調べ、この研修において自分がどのような保育者になろうとするのかをイメージする。(3h)
2	事前指導（学内）　課題として調べた内容をもとに必要書類に記入する。 [課題（予習）]研修に必要な書類等の確認と質問事項の把握を確実におこなう。(3h)
3～14	保育所・幼稚園等で実務研修　自己のテーマを明確にして研修に取り組む [課題（復習）]１日の研修を振り返り、研修ノートを作成する。必要に応じ、指導計画を作成する。(3h) 研修ノートは毎週実務研修訪問担当教員に提出し、指導を受ける。
15	事後指導・まとめ 事後指導においてレポートを提出 [課題（復習）]研修を終え、期間における貴重な体験を振り返り、自分なりの方法でまとめていく。(3h)

時間外での学修	個人研究課題の追及や事例の作成などの必要な記録を、自分なりの方法や様式でまとめていく。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間】
受講学生へのメッセージ	実習との違いを明確に意識化し、研修を通して大学での学びを往復させながら保育実践力を身につけていきましょう。質問等は各指導担当教員のオフィスアワーを活用してください。

【1C5A203】保育実務研修Ⅱ	幼児教育学科		3年前期	
	3単位	選択必修	演習	90時間

教員	立崎　博則・光井　恵子・今村　民子・大橋　淳子・垣添　忠厚		
資格・制限等	既修得科目等による制限の場合有り		
実務家教員	大橋：幼稚園教諭28年、垣添：公立学校教諭・18年		
授業方法	保育現場などでの実務研修。		
到達目標	知識・理解	保育実務研修の研修内容について理解し、実践的・社会人基礎力・保育構想力を備えた保育実践力を修得するために必要な知識を身につける。	○
	思考・判断・表現	保育現場での課題や学ぶべき点に気づき、それを分析し判断する。 実務研修に取り組む際の自己のテーマを明確にし、これまでの学びの集積を自覚して成長したことを具体的に挙げることができる。	○
	技能	社会に貢献する使命感と責任感もって、一人ひとりの子ども理解に応じた援助や環境構成ができる。	◎
	関心・意欲・態度	研修に積極的に取組み、事例の集積と多様的視点で記録を作成する。 学内での研修に意欲的に取り組む。	○
	備考	◎・○・△は学科のDP・到達指標との関連の強さを示しています。	

授業内容	保育現場において、保育実務に近い内容で長期研修を行うことによって、実践的研究・社会人基礎力・保育構想力を備えた保育実践力の育成を目的とする。この力を育成するために、実務研修に取り組む際のテーマを明確にもち、事例の集積と多様的視点で実務研修の記録を行う。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実務研修事前事後課題	5	5	5	5	20
研修現場での実践	10	10	20	-	40
実務研修記録の作成	10	10	10	10	40
合　計(点)	25	25	35	15	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	実務研修記録は担当教員が毎回チェックします。
テキスト	
参考書・教材	幼稚園教育要領具解説、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領ほか必要に応じて配布します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション・事前指導（学内） [課題（予習）]研修先の園等を調べ、この研修において自分がどのような保育者になろうとするのかをイメージする。(3h)
2	事前指導（学内）　課題として調べた内容をもとに必要書類に記入する。 [課題（予習）]研修に必要な書類等の確認と質問事項の把握を確実におこなう。(3h)
3～14	保育所・幼稚園等で実務研修　自己のテーマを明確にして研修に取り組む [課題（復習）]１日の研修を振り返り、研修ノートを作成する。(3h) 研修ノートは毎週実務研修訪問担当教員に提出し、指導を受ける。
15	事後指導・まとめ 事後指導においてレポートを提出 [課題（復習）]研修を終え、期間における貴重な体験を振り返り、自分なりの方法でまとめていく。(3h)

時間外での学修	個人研究課題の追及や事例の作成などの必要な記録を、自分なりの方法や様式でまとめていく。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間】
受講学生へのメッセージ	実習との違いを明確に意識化し、研修を通して大学での学びを往復させながら保育実践力を身につけていきましょう。　質問等は各指導担当教員のオフィスアワーを活用してください。

【1C5A204】保育実務研修III	幼児教育学科		3年後期	
	3単位	選択必修	演習	90時間

教員	立崎　博則・光井　恵子・今村　民子・大橋　淳子・垣添　忠厚		
資格・制限等	既修得科目等による制限の場合有り		
実務家教員	大橋：幼稚園教諭28年、垣添：公立学校教諭・18年		
授業方法	保育現場などでの実務研修。		
到達目標	知識・理解	保育実務研修の研修内容について理解し、実践的・社会人基礎力・保育構想力を備えた保育実践力を修得するために必要な知識を身につける。	○
	思考・判断・表現	保育現場での課題や学ぶべき点に気づき、それを分析し判断する。 実務研修に取り組む際の自己のテーマを明確にし、これまでの学びの集積を自覚して成長したことを具体的に挙げることができる。	○
	技能	社会に貢献する使命感と責任感もって、一人ひとりの子ども理解に応じた援助や環境構成ができる。	◎
	関心・意欲・態度	研修に積極的に取組み、事例の集積と多様的視点で記録を作成する。 学内での研修に意欲的に取り組む。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育現場において、保育実務に近い内容で長期研修を行うことによって、実践的研究・社会人基礎力・保育構想力を備えた保育実践力の育成を目的とする。この力を育成するために、実務研修に取り組む際のテーマを明確にもち、事例の集積と多様的視点で実務研修の記録を行う。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実務研修事前事後課題	5	5	5	5	20
研修現場での実践	10	10	20	-	40
実務研修記録の作成	10	10	10	10	40
合　計(点)	25	25	35	15	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	実務研修記録は担当教員が毎回チェックします。
テキスト	
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領ほか必要に応じて配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション [課題（予習）]研修先の園等を調べ、この研修において自分がどのような保育者になろうとするのかをイメージする。（4h）
2	事前指導（学内） [課題（予習）]研修に必要な書類等の確認と質問事項の把握を確実におこなう。(4h)
3～14	保育所・幼稚園等で実務研修　自己のテーマを明確にして研修に取り組む [課題（復習）]１日の研修を振り返り、研修ノートを作成する。必要に応じ、指導計画を作成する。(4h) 研修ノートは毎週実務研修訪問担当教員に提出し、指導を受ける。
15	事後指導・前期保育実務研修のまとめ [課題（復習）]研修を終え、期間における貴重な体験を振り返り、自分なりの方法でまとめていく。(4h)

時間外での学修	個人研究課題の追及や事例の作成などの必要な記録を、自分なりの方法や様式でまとめていく。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間】
受講学生へのメッセージ	実習との違いを明確に意識化し、研修を通して大学での学びを往復させながら保育実践力を身につけていきましょう。質問等は各指導担当教員のオフィスアワーを活用してください。

【1C5A205】保育実務研修IV	幼児教育学科		3年後期	
	3単位	選択必修	演習	90時間

教員	立崎　博則・光井　恵子・今村　民子・大橋　淳子・垣添　忠厚		
資格・制限等	既修得科目等による制限の場合有り		
実務家教員	大橋：幼稚園教諭28年、垣添：公立学校教諭・18年		
授業方法	保育現場などでの実務研修。		
到達目標	知識・理解	保育実務研修の研修内容について理解し、実践的・社会人基礎力・保育構想力を備えた保育実践力を修得するために必要な知識を身につける。	○
	思考・判断・表現	保育現場での課題や学ぶべき点に気づき、それを分析し判断する。 実務研修に取り組む際の自己のテーマを明確にし、これまでの学びの集積を自覚して成長したことを具体的に挙げることができる。	○
	技能	社会に貢献する使命感と責任感もって、一人ひとりの子ども理解に応じた援助や環境構成ができる。	◎
	関心・意欲・態度	研修に積極的に取組み、事例の集積と多様的視点で記録を作成する。 学内での研修に意欲的に取り組む。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	保育現場において、保育実務に近い内容で長期研修を行うことによって、実践的研究・社会人基礎力・保育構想力を備えた保育実践力の育成を目的とする。この力を育成するために、実務研修に取り組む際のテーマを明確にもち、事例の集積と多様的視点で実務研修の記録を行う。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実務研修事前事後課題	5	5	5	5	20
研修現場での実践	10	10	20	-	40
実務研修記録の作成	10	10	10	10	40
合　計(点)	25	25	35	15	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	実務研修記録は担当教員が毎回チェックします。
テキスト	
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領ほか必要に応じて配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション [課題（予習）]この研修において自分がどのような保育者になろうとするのかをイメージする。（3h）
2	事前指導（学内） [課題（予習）]研修に必要な書類等の確認と質問事項の把握を確実におこなう。(3h)
3～14	保育所・幼稚園等で実務研修　自己のテーマを明確にして研修に取り組む [課題（復習）]１日の研修を振り返り、研修ノートを作成する。必要に応じ、指導計画を作成する。(4h) 研修ノートは毎週実務研修訪問担当教員に提出し、指導を受ける。
15	事後指導・前期保育実務研修のまとめと保育の展開 [課題（復習）]研修を終え、期間における貴重な体験を振り返り、自分なりの方法でまとめていく。(3h)

時間外での学修	個人研究課題の追及や事例の作成などの必要な記録を、自分なりの方法や様式でまとめていく。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間】
受講学生へのメッセージ	実習との違いを明確に意識化し、研修を通して大学での学びを往復させながら保育実践力を身につけていきましょう。質問等は各指導担当教員のオフィスアワーを活用してください。

【1C5A206】保育・教職実践演習Ⅰ	幼児教育学科		3年前期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	名和　孝浩・光井　恵子・大橋　淳子・垣添　忠厚・川島　民子・立崎　博則・茂木　七香		
資格・制限等	幼免･保資必修		
実務家教員	大橋：幼稚園教諭・28年		
授業方法	カンファレンスなど、小グループごとに実践での課題や成果を話し合い、その結果を個々に全体の場で発表する。全体でシェアしていく中で、多様な子ども観や保育方法等を理解し、自身の保育観の涵養や実践能力の向上につなげていく。		
到達目標	知識・理解	保育の本質を理解し、保育者として専門的知識に基づき、子どもに応じた援助や適切な環境構成、子育て支援を行うための知識を修得することができる。	○
	思考・判断・表現	教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となる総合的な思考力や判断力、表現力の基礎を培うことができる。	◎
	技能	保育実践に必要な保育技術や情報収集能力をもち、子どもとの関係を構築し、職員と協働するとともに、地域や保護者と連携できるコミュニケーション能力がある。	◎
	関心・意欲・態度	豊かな教養と人間性、社会人基礎力を備え、常に資質能力の向上を図り、地域や保護者と連携し様々な課題に対応していこうとすることができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	(1)具体的な事例を取り上げて、自己の在り方や対応、指導の実際についてさらに深く考える。 (2)教育や保育に関する具体的事例をあげながら、実践的な指導力について考え、場面を設定しながら指導計画を作成して全員が部分実習を行い、園児への指導と支援の在り方と求められる資質や能力について討議する。また保護者との対応についても現場で求められる資質や能力について確認し、一層の向上を図るとともに、実践的な指導力を確実に身につけていくようにする。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	10	10	10	-	30
発表（カンファレンス）	10	20	20	-	50
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	20	30	30	20	100

評価の特記事項	発表は、授業内で行ったカンファレンスの参加態度などから総合的に評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	カンファレンスシートを通して学修内容の確認と助言を行う。
テキスト	
参考書・教材	内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 厚生労働省『保育所保育指針 解説書』

内容

実施回	授業内容・目標
1	イントロダクション 〔準備・課題〕実践事例の収集と保育現場での視点づくり（1h）
2	保育実務研修の保育・教職における意義と視点 〔準備・課題〕保育者としての自己課題を整理し、まとめておく（1h）
3	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス①（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔準備・課題〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
4	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス②（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔準備・課題〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
5	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス③（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔準備・課題〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
6	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス④（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔準備・課題〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
7	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス⑤（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔準備・課題〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
8	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス⑥（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔準備・課題〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
9	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス⑦（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔準備・課題〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
10	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス⑧（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔準備・課題〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
11	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス⑨（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔準備・課題〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
12	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス⑩（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔準備・課題〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
13	保育内容についての知識・技能と指導法の総括Ⅰ～指導計画について～ 〔準備・課題〕指導計画の再構成（1h）

内容	
実施回	授業内容・目標
14	保育内容についての知識・技能と指導法の総括Ⅱ～エピソード記録について～ 〔準備・課題〕エピソード記録の作成（1h）
15	まとめ 〔準備・課題〕保育者に求められる資質能力と各自の課題についてまとめる（2h）

時間外での学修	保育実務研修でのねらいを明確にし、カンファレンスに臨む前には必ず研修記録を整理・検討しておくこと。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	3年間学んできたことのすべてを駆使し、教育・保育者としての完成をめざす時間です。 実践およびカンファレンスで生じた課題の質問などは、担当教員のオフィスアワーにて受け付けます。オフィスアワーは研究室にて水曜日15：10～です。

【1C5A207】保育・教職実践演習Ⅱ	幼児教育学科		3年後期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	名和　孝浩・今村　民子・大橋　淳子・垣添　忠厚・川島　民子		
資格・制限等	幼免･保資必修		
実務家教員	大橋：幼稚園教諭・28年、垣添：公立学校教諭・18年		
授業方法	カンファレンスなど、小グループごとに実践での課題や成果を話し合い、その結果を個々に全体の場で発表する。全体でシェアしていく中で、多様な子ども観や保育方法等を理解し、自身の保育観の涵養や実践能力の向上につなげていく。		
到達目標	知識・理解	保育の本質を理解し、保育者として専門的知識に基づき、子どもに応じた援助や適切な環境構成、子育て支援を行うための知識を修得することができる。	○
	思考・判断・表現	教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となる総合的な思考力や判断力、表現力の基礎を培うことができる。	◎
	技能	保育実践に必要な保育技術や情報収集能力をもち、子どもとの関係を構築し、職員と協働するとともに、地域や保護者と連携できるコミュニケーション能力がある。	◎
	関心・意欲・態度	豊かな教養と人間性、社会人基礎力を備え、常に資質能力の向上を図り、地域や保護者と連携し様々な課題に対応していこうとすることができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	(1)具体的な事例を取り上げて、自己の在り方や対応、指導の実際についてさらに深く考える。 (2)教育や保育に関する具体的事例をあげながら、実践的な指導力について考え、場面を設定しながら指導計画を作成して全員が部分実習を行い、園児への指導と支援の在り方と求められる資質や能力について討議する。また、保護者との対応についても現場で求められる資質や能力について確認し、一層の向上を図るとともに、実践的な指導力を確実に身につけていくようにする。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	10	10	10	-	30
発表（カンファレンス）	10	20	20	-	50
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	20	30	30	20	100

評価の特記事項	発表は、授業内で行ったカンファレンスの参加態度などから総合的に評価します。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	カンファレンスシートを通して学修内容の確認と助言を行う。
テキスト	
参考書・教材	内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 厚生労働省『保育所保育指針解説』

内容	
実施回	授業内容・目標
1	イントロダクション 〔課題（予習）〕実践事例の収集と保育現場での視点づくり（1h）
2	保育実務研修の保育・教職における意義と視点 〔課題（予習）〕保育者としての自己課題を整理し、まとめておく（1h）
3	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス①（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔課題（予習）〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
4	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス②（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔課題（予習）〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
5	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス③（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔課題（予習）〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
6	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス④（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔課題（予習）〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
7	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス⑤（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔課題（予習）〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
8	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス⑥（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔課題（予習）〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
9	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス⑦（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔課題（予習）〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
10	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス⑧（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔課題（予習）〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
11	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス⑨（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔課題（予習）〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
12	実習や研修から学んだ保育エピソードを通したカンファレンス⑩（課題としてまとめた実習・研修記録の事例から） 〔課題（予習）〕実習・研修記録の整理と課題の抽出（1h）
13	保育内容についての知識・技能と指導法の総括Ⅰ～指導計画について～ 〔課題（予習）〕指導計画の再構成（1h）

内容	
実施回	授業内容・目標
14	保育内容についての知識・技能と指導法の総括Ⅱ～エピソード記録について～ 〔課題（予習）〕エピソード記録の作成（1h）
15	まとめ 〔課題（予習）〕保育者に求められる資質能力と各自の課題についてまとめる（2h）

時間外での学修	保育実務研修でのねらいを明確にし、カンファレンスに臨む前には必ず研修記録を整理・検討しておくこと。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	3年間学んできたことのすべてを駆使し、教育・保育者としての完成をめざす時間です。 実践およびカンファレンスで生じた課題の質問などは、担当教員のオフィスアワーにて受付けます。オフィスアワーは研究室にて水曜日の15：10～です。

【1C5A210】子ども研究Ⅰ	幼児教育学科		3年前期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	名和　孝浩・光井　恵子・大橋　淳子・垣添　忠厚・立崎　博則		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	大橋：幼稚園教諭28年、垣添：公立学校教諭・18年		
授業方法	授業はゼミ形式で行います。自身が立てた研究計画に沿って、自らが着目した研究課題に関連する資料・文献・作品例をできるだけ多く収集・購読・調査・試作等をとおして研究を深めていきます。情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養います。【課題】あらかじめ、学生ポータルや資料等で課題が明確になるよう周知を行ないます。必要に応じてオンラインによる双方向の授業も行います。		
到達目標	知識・理解	幼児教育・保育にかかわる課題に気づき、それを分析し、調査・検証し、報告することができる。	◎
	思考・判断・表現	教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となる総合的な思考力や判断力、表現力の基礎を培うことができる。	◎
	技能	豊かな感性を養い、これまでの学びの集積や技術を具体的に示し、実践の後に常に自らの言動を振り返り、新たな方法や手だてを図ることに努める。	○
	関心・意欲・態度	豊かな感性と教養を養い、理想の保育者像を描き、常に研鑽に努めることができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	日常の学修や子ども研究をもとに、幼児教育学科での3年間の学びの集大成として、学生自身が様々な保育の分野から研究課題を選び、それについての調査・検証あるいは作品制作をとおしての臨床結果等を考察し、文書にまとめます。保育者として幼児教育における諸課題に取り組む姿勢や研究方法、論文（研究報告書）作成の力を養うことを目的とします。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	20	20	10	-	50
発表／発表資料	10	10	10	-	30
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	30	30	20	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	研究内容に関する個別指導を行う。
テキスト	ありません。
参考書・教材	各自のテーマに沿って随時提示します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション（子ども研究とは・すすめ方等） 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]自分の研究分野に関する文献の収集(3～6h)
2	研究課題の決定、研究計画をたてる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]研究計画の作成、文献収集(3～6h)
3	研究計画に沿って各自で資料収集・調査・制作等をすすめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと資料の作成(3～6h)
4	研究計画に沿って各自で資料収集・調査・制作等をすすめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと資料の作成(3～6h)
5	研究計画に沿って各自で資料収集・調査・制作等をすすめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと資料の作成(3～6h)
6	研究計画に沿って各自で資料収集・調査・制作等をすすめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと資料の作成(3～6h)
7	研究計画に沿って各自で資料収集・調査・制作等をすすめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと資料の作成(3～6h)
8	研究計画に沿って各自で資料収集・調査・制作等をすすめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと資料の作成(3～6h)
9	研究計画に沿って各自で資料収集・調査・制作等をすすめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと資料の作成(3～6h)
10	研究計画に沿って各自で資料収集・調査・制作等をすすめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと資料の作成(3～6h)

内容	
実施回	授業内容・目標
11	研究計画に沿って各自で資料収集・調査・制作等をすすめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと資料の作成(3～6h)
12	研究計画に沿って各自で資料収集・調査・制作等をすすめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと資料の作成(3～6h)
13	各自の研究の中間まとめ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]パワーポイントの作成(3～6h)
14	各自の研究の中間まとめ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]パワーポイントの作成(3～6h)
15	前期のまとめ、幼教合宿での中間発表のリハーサル 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]パワーポイントにおける発表練習、ハンドアウトの作成(3～6h)

時間外での学修	1年間をとおして自らの着目した研究課題を掘り下げていくために、資料収集、文献の購読、実地調査、作品の試作など、自らの立てた計画にそって時間を有効に使ってください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	1年間をとおして自らの着目した研究課題を掘り下げていき、前期は幼教合宿で中間発表、後期には卒業研究報告書として提出するとともに卒業研究報告会で発表します。 質問、研究相談は各ゼミのオフィスアワーを活用してください。

【1C5A211】子ども研究Ⅱ	幼児教育学科		3年後期	
	1単位	必修	演習	30時間

教員	立崎　博則・光井　恵子・今村　民子・大橋　淳子・垣添　忠厚・名和　孝浩		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	大橋：幼稚園教諭28年、垣添：公立学校教諭・18年		
授業方法	授業はゼミ形式で行います。自身が立てた研究計画に沿って、自らが着目した研究課題に関連する資料・文献・作品例をできるだけ多く収集・購読・調査・試作等をとおして研究を深めていきます。情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養います。		
到達目標	知識・理解	幼児教育・保育にかかわる課題に気づき、それを分析し、調査・検証し、報告することができる。	○
	思考・判断・表現	教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となる総合的な思考力や判断力、表現力の基礎を培うことができる。	◎
	技能	豊かな感性を養い、これまでの学びの集積や技術を具体的に示し、実践の後に自らの言動を振り返り、新たな方法や手だてを図ることに努める。	◎
	関心・意欲・態度	豊かな感性と教養を養い、理想の保育者像を描き、常に研鑽に努めることができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	日常の学修や子ども研究をもとに、幼児教育学科での3年間の学びの集大成として、学生自身が様々な保育の分野から研究課題を選び、それについての調査・検証あるいは作品制作をとおしての臨床結果等を考察し、文書にまとめます。保育者として幼児教育における諸課題に取り組む姿勢や研究方法、論文（研究報告書）作成の力を養うことを目的とします。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
論文（研究報告書）	10	20	20	-	50
発表／発表資料	10	10	10	-	30
受講態度	-	-	-	20	20
合　計(点)	20	30	30	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	研究内容に関する個別指導を行う。
テキスト	ありません。
参考書・教材	各自のテーマに沿って随時提示します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	論文の書き方について 前期のまとめをもとにさらに研究をすすめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと資料の作成(3～6h)
2	計画に沿って、研究をすすめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと資料の作成(3～6h)
3	計画に沿って、研究をすすめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと資料の作成(3～6h)
4	計画に沿って、研究をすすめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと資料の作成(3～6h)
5	計画に沿って、研究をすすめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと資料の作成(3～6h)
6	研究内容を文書でまとめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと作成した資料の再構成、執筆(3～6h)
7	研究内容を文書でまとめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと作成した資料の再構成、執筆(3～6h)
8	研究内容を文書でまとめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと作成した資料の再構成、執筆(3～6h)
9	研究内容を文書でまとめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと作成した資料の再構成、執筆(3～6h)
10	研究内容を文書でまとめる。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]研究分野に関する文献の読み込みと作成した資料の再構成、執筆(3～6h)

内容	
実施回	授業内容・目標
11	卒業研究報告会にむけて準備 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]ポスターセッションの準備とハンドアウト・掲示資料の作成(3～6h)
12	卒業研究報告会にむけて準備 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]ポスターセッションの準備とハンドアウト・掲示資料の作成(3～6h)
13	卒業研究報告会にむけて準備 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]ポスターセッションの準備とハンドアウト・掲示資料の作成(3～6h)
14	卒業研究報告会 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す　課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]ポスターセッションの準備とハンドアウト・掲示資料の作成(3～6h)
15	卒業研究報告書原稿の提出と総括 [課題（準備）]卒業研究報告書原稿の作成と修正(3～6h)

時間外での学修	1年間をとおして自らの着目した研究課題を掘り下げていくために、資料収集、文献の購読、実地調査、作品の試作など、自らの立てた計画にそって時間を有効に使ってください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	1年間をとおして自らの着目した研究課題を掘り下げていき、前期は幼教合宿で中間発表、後期には卒業研究報告書として提出するとともに卒業研究報告会で発表します。 質問、研究相談は各ゼミのオフィスアワーを活用してください。

【1C6F201】ウインドアンサンブル	幼児教育学科		3年前期	
	2単位	選択必修	演習	60時間

教員	鈴木　孝育		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	吹奏楽指導者（含　高等学校教員）３６年		
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。時に、課題による発表や筆記試験も実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。		
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ＆ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。	△
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につける。	○
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。初見演奏力を身につける。	◎
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し、円滑に練習を進めることができる。保育現場において、子どもの成長発達に応じた音楽活動についての指導や支援ができる保育者にむかって、研鑽に努める事ができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ＆ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の集中練習を実施する予定です。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	10	50	-	60
受講態度	-	-	-	10	10
小テスト・提出物	10	10	-	10	30
合　計(点)	10	20	50	20	100

評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。 全授業の３分の１以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。
テキスト	その都度配布
参考書・教材	楽譜等その都度配布

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス　授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布、全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート内集団活動。パート練習の打ち合わせ、配布した音楽鑑賞（学外演奏）用楽曲をパートで譜読み。 [課題（準備・予習）]シラバスの熟読、音楽鑑賞用楽曲の譜読み、各自、楽器、衣装・譜面台・ファイル等配布物の整理。（2h～4h）
2	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
3	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
4	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
5	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。楽譜通り正確に演奏できるように学修。 日時を変更して実施。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
6	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲仕上げ合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のまとめ（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）

内容	
実施回	授業内容・目標
7	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用（学外演奏用）楽曲仕上げ合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のまとめ（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
8	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
9	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
10	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
11	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
12	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
13	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
14	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（テンポの変化、表現記号、ダイナミクスの変化、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
15	前期実技試験指定曲の合奏及び、筆記試験、学修記録ノートの記入。 [課題（復習）]試験指定曲の復習。筆記試験の確認、復習。（2h～4h）

時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を積極的に行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：３０～６０時間】
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。欠席や遅刻は、全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑がかかります。従って、出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。合奏メンバーとしてのマナーを身につけましょう。オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【1C6F201】ウインドアンサンブル	幼児教育学科		3年後期	
	2単位	選択必修	演習	60時間

教員	鈴木　孝育		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	吹奏楽指導者（含　高等学校教員）３６年		
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。時に、課題による発表や筆記試験も実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。		
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ＆ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。	△
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につける。	○
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。初見演奏力を身につける。	◎
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し、円滑に練習を進めることができる。保育現場において、子どもの成長発達に応じた音楽活動についての指導や支援ができる保育者にむかって、研鑽に努める事ができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ＆ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の集中練習を実施する予定です。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	-	10	50	-	60
受講態度	-	-	-	10	10
小テスト・提出物	10	10	-	10	30
合　計(点)	10	20	50	20	100

評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。 全授業の３分の１以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。
テキスト	その都度配布
参考書・教材	楽譜等その都度配布

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス　授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。 初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート内集団活動。 パート練習の打ち合わせ、配布した定期演奏会用楽曲をパートで譜読み。 [課題（準備・予習）]シラバスの熟読。初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
2	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
3	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
4	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート内集団活動。 パート練習の打ち合わせ、配布した定期演奏会用楽曲をパートで譜読み。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
5	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
6	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）

内容	
実施回	授業内容・目標
7	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏、研究・調査。パート内集団活動。パート練習の打ち合わせ、配布した定期演奏会用楽曲をパートで譜読み。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
8	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
9	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲合奏、研究・調査・発表。楽譜通り正確に演奏できるよう、ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。パート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニーの取り方や音程の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
10	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲の合奏、研究・調査・発表。パート別演習、セクション別演習、討議。仕上げ。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に、テンポの変化、ダイナミクスの変化に注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
11	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲の合奏、研究・調査・発表。パート別演習、セクション別演習、討議。仕上げ。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に旋律部分、伴奏部分の音楽の違いに注意しながら）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
12	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲の合奏、研究・調査・発表。パート別演習、セクション別演習、討議。仕上げ。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に、他のパートとの調和などに注意するように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
13	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲の合奏、研究・調査・発表。パート別演習、セクション別演習、討議。仕上げ。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に時代背景や特徴的な表現記号を反映させながら）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
14	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲の合奏、研究・調査・発表。パート別演習、セクション別演習、討議。仕上げ。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に自分なりの音楽を考えながら）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
15	後期実技試験指定曲の合奏及び、筆記試験、学修記録ノートの記入。 [課題（復習）]試験指定曲の復習。筆記試験の確認、復習。（2h～4h）

時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を積極的に行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：３０～６０時間】
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。欠席や遅刻は、全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑がかかります。従って、出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。合奏メンバーとしてのマナーを身につけましょう。オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【1C6S105】音楽療法・臨床	幼児教育学科		3年前期	
	2単位	選択必修	講義	30時間

教員	菅田　文子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年		
授業方法	講義形式ですが演習も含みます。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。		
到達目標	知識・理解	音楽療法の臨床分野（児童・成人・高齢）それぞれについて、主要な目的と活動について理解、説明ができる。	◎
	思考・判断・表現	音楽の治療的用い方について説明ができる。 音楽療法に関連のある心理療法の概略について理解、説明ができる。	◎
	技能	目標に沿った音楽活動を発表できる。	△
	関心・意欲・態度	対象者に即した課題を相手にわかりやすく工夫した形で発表することができる。	△

授業内容	この授業では臨床実習に向けて、基礎となる力をつけることを目的とします。授業内容は大きくわけて２つに分かれます。ひとつめは音楽療法全般に関する理論と音楽療法を受ける対象となる人の病気、障害、心理特性などについての知識を学ぶことです。ふたつめはそれぞれの対象に向けた実践の内容について学びます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	30	30	-	-	60
レポート	10	10	-	-	20
発表（グループ発表含む）	-	-	10	-	10
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	40	40	10	10	100

評価の特記事項	授業回数の1/3以上欠席した学生は定期試験の受験資格がありません。 課題発表、提出物のない学生は定期試験の受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	課題や感想をGoogle Formで提出してもらいます。
課題に対するフィードバック	よいレポートは授業内で取り上げます。
テキスト	プリントを授業内で配布します。
参考書・教材	

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション　心理学の理論、心理学の歴史概論 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、心理学理論の歴史について理解する（4H）
2	理論１：精神分析　無意識、防衛機能について 精神分析理論を用いた音楽療法について　教材視聴 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、精神分析と音楽療法の関連について理解する（4H）
3	自己防衛メカニズムについて [課題（復習）]指定する書式に沿ってレポート課題を提出する（4H）
4	理論２－１：行動療法　学習と強化について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、行動療法の理論的背景とアプローチについて理解する（4H）
5	理論２－２：行動療法を用いた音楽療法　目標設定と般化について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、行動療法的音楽療法の目標設定について理解する（4H）
6	理論３－１：人間主義　クライエント中心療法、カウンセリングについて　受容と共感 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、人間主義的関わりとこれまでの理論の違いを理解する（4H）
7	理論３－２：人間主義的音楽療法　創造的音楽療法について　教材視聴 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、即興を用いる音楽療法の目的を理解する（4H）
8	聴覚障害と音楽療法１ 聴こえの仕組み、耳の構造、難聴の定義　教材視聴 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、聴こえの仕組みについて理解する（4H）
9	聴覚障害と音楽療法２ 人工内耳と聴覚リハビリテーション、手話とろう文化 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、聴覚障害の治療についての問題を理解する（4H）
10	重度重複障害者に対する音楽療法１ ゲストスピーカーを招いて学ぶ。対象者理解と適切な目標設定、音楽活動について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4H）
11	不登校とカウンセリング 不登校の歴史、カウンセリングで重視すること 不登校児童と音楽療法 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4H）
12	意識障害と音楽療法 昏睡患者に対する音楽療法、NICUにおける音楽療法 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4H）
13	医療現場における音楽療法の役割 疼痛緩和、ストレスの軽減、チーム医療としての音楽療法士の役割について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4H）
14	レポート課題について説明、文献の調べ方、書き方について [課題（復習）]学んだ内容の復習、レポート作成（4H）
15	他職種との連携と音楽療法活動 [課題（復習）]学んだ内容の復習、レポート作成（4H）

時間外での学修	毎回宿題が出ますので準備をしてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】

受講学生へのメッセージ	課題のレポート、練習問題の成績比率が成績評価に関係してきます。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【1C6A106】音楽療法・技法	幼児教育学科		3年後期	
	2単位	選択必修	講義	30時間

教員	菅田　文子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年		
授業方法	講義形式ですが演習も含みます。授業内で福祉施設に出かけ、実践を行います。 小グループでの討論、検討結果の発表も行います。		
到達目標	知識・理解	音楽療法の技法について基本的な知識を得ておりそれぞれの理解ができている。	◎
	思考・判断・表現	音楽療法に関連する分野についての基本的な知識を持ち、どの分野にどの技法が適しているか判断できる。	△
	技能	正しい文章で的確なレポートが書ける。	○
	関心・意欲・態度	施設において実習にふさわしい態度がとれる。	○

授業内容	音楽療法士として必要な音楽技法や心理的援助方法、集団をまとめる方法についての知識を学びます。 臨床の現場で発生する問題や課題について解決方法をクラス内で討議し、問題解決能力の向上をはかります。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート	20	10	10	-	40
受講態度	-	-	10	20	30
実技試験	30	-	-	-	30
合　計(点)	50	10	20	20	100

評価の特記事項	３分の１以上欠席した学生は定期試験の受験資格がありません。 課題の発表、レポートの提出を行わない学生は定期試験の受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	課題や感想を学生ポータルやGoogle Formで提出してもらいます。
課題に対するフィードバック	良いレポートは授業でとりあげます。
テキスト	
参考書・教材	授業中にプリントを配付します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1	認知機能を測る標準化されたテストについて：かなひろいテスト、MMSE、長谷川式についてそれぞれの特徴を知り、長谷川式テストの練習を2人ひと組になって行う。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、次回自分でテストを行う練習をする（4H）
2	新版長谷川式テストを一人ずつ行い点数計算ができるようになる。それぞれの待ち時間には移調課題を行う。次週の回想法発表に向けて課題の説明 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、テストを行う側の態度について理解する（4H）
3	回想法について：手順と方法について学ぶ。各自持参した回想法に使う道具を発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、回想法について理解する（4H）
4	学習療法について：手順と方法について学ぶ。簡単なクイズの作成、発表を行う。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、学習方法について理解する（4H）
5	学習療法について：手順と方法について学ぶ。簡単なクイズの作成、発表を行う。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、学習方法について理解する（4H）
6	回想法と音楽療法の組み合わせ：対象者にとって重要な出来事や時期に合致する選曲を行い、どのように声かけを行うか発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、高齢者にとって懐かしい音楽についてまとめる（4H）
7	学習療法と音楽療法の組み合わせ：歌唱や楽器演奏を取り入れることで言葉を記憶しやすくしたり、複数の活動を一度に行う方法について発表する。曲名を連想するクイズを作成する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、使用する曲を練習する（4H）
8	高齢者施設における音楽療法１：計画 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、担当した曲の練習を行う（4H）
9	高齢者施設における音楽療法２：リハーサル [課題（復習）]学んだ内容を復習し、担当した曲の練習を行う（4H）
10	高齢者施設における音楽療法３：実践 [課題（復習）]実践記録を仕上げる（4H）
11	高齢者施設における音楽療法４：振り返りと記録の提出 次回の計画 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、使用する曲の練習を行う（4H）
12	高齢者施設における音楽療法５：リハーサル [課題（復習）]実践で担当する活動の練習（4H）
13	高齢者施設における音楽療法６：実践 [課題（復習）]実践記録を仕上げる（4H）
14	高齢者施設における音楽療法７：振り返りと記録の提出 [課題（復習）]学んだ内容を復習する（4H）
15	音楽療法を現場で実践するにあたっての業務、予算、計画申請などについて。これまでの授業の振り返り [課題（復習）]学んだ内容の復習（4H）

時間外での学修	毎週コード付け課題が出されます。宿題として評価の対象になります。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	知識と、自分で考える能力の両方が現場では必要とされます。自分ならどうするのか、常に考えながら授業に臨んでください。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【1C6A207】音楽療法総合演習	幼児教育学科		3年前期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	菅田　文子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年		
授業方法	演習形式。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。		
到達目標	知識・理解	音楽療法のプログラム構成と目標設定についての知識を得ている。	◎
	思考・判断・表現	施設における音楽活動を適切に振り返り記録することができる。	△
	技能	簡単な和音奏の編曲ができる。簡単な打楽器の編曲ができる。対象者の伴奏ができ、活動を計画、実行できる。	◎
	関心・意欲・態度	自分の担当する活動を責任持って準備できる。	◎

授業内容	障害児・者施設の実習に向けて、音楽の演奏、編曲の能力を高めるための課題を行います。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
課題提出	30	10	10	-	50
受講態度	-	-	-	10	10
発表（グループ発表含む）	-	-	20	20	40
合　計(点)	30	10	30	30	100

評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生、課題の提出がない学生は期末試験の受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	Google　Formを活用して授業のコメントや課題を提出してもらいます。
課題に対するフィードバック	次回以降の授業中に紹介しコメントします。
テキスト	
参考書・教材	

内容

実施回	授業内容・目標
1	実習先利用者の説明 1人２つの活動、曲を選び発表する [課題（復習）]学んだ内容を復習し、練習しておく（1H）
2	先週決定した曲の発表、歌唱活動の目標設定 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、練習しておく（1H）
3	楽器活動、身体活動の目標設定、練習、各自発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、練習しておく（1H）
4	施設実習のためのセッション計画① プログラムの決定、アシスタントの役割決定、伴奏の発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、選曲したプログラムの準備を行う（1H）
5	施設実習のためのセッション計画② 歌詞幕、楽器などの準備、伴奏の発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、プログラムの準備をすすめる（1H）
6	施設実習のためのセッション計画③ 前半は個人練習、後半でリハーサル [課題（復習）]学んだ内容を復習し、プログラムの準備をすすめる（1H）
7	施設実習のためのセッション計画① プログラムの決定、アシスタントの役割決定、伴奏の発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、選曲したプログラムの準備を行う（1H）
8	施設実習のためのセッション計画② 歌詞幕、楽器などの準備、伴奏の発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、プログラムの準備をすすめる（1H）
9	施設実習のためのセッション計画③ 前半は個人練習、後半でリハーサル [課題（復習）]学んだ内容を復習し、プログラムの準備をすすめる（1H）
10	施設実習のためのセッション計画① プログラムの決定、アシスタントの役割決定、伴奏の発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、選曲したプログラムの準備を行う（1H）
11	施設実習のためのセッション計画② 歌詞幕、楽器などの準備、伴奏の発表 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、プログラムの準備をすすめる（1H）
12	施設実習のためのセッション計画③ 前半は個人練習、後半でリハーサル [課題（復習）]学んだ内容を復習し、プログラムの準備をすすめる（1H）
13	鑑賞用ベル演奏のリハーサル①、ギターの基礎① [課題（復習）]学んだ内容を復習し、プログラムの準備をすすめる（1H）
14	鑑賞用ベル演奏のリハーサル②、ギターの基礎② [課題（復習）]学んだ内容を復習し、プログラムの準備をすすめる（1H）
15	ギターの基礎③、テスト発表の曲準備 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、テストに備える（1H）

時間外での学修	課題は授業時間外に各自準備をして授業に臨んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	アンサンブルの発表はグループで行いますので、協調性を持って課題に取り組んでください。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【1C6A210】リトミック	幼児教育学科		3年前期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	光井　恵子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員			
授業方法	グループでの演習活動を中心に行い、指導案作成や模擬保育の実践をしていきます。		
到達目標	知識・理解	幼児教育でのリトミック活動の意義や内容を理解し説明することができる	○
	思考・判断・表現	リトミック活動を通して自らの感性を高め、豊かで汎用的な表現活動をすることができる	◎
	技能	リトミック活動をするために必要な音楽的な技術を持ち、実践的な活動に繋げることができる	○
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる	○
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています	

授業内容	リトミック活動を通して、幼児期に形成される集中力や創造力、思考力等の情操感覚を育んでいく音楽教育の方法を学んでいきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
課題レポート	20	20	-	-	40
発表	-	10	20	-	30
受講態度	-	10	-	20	30
合　計(点)	20	40	20	20	100

評価の特記事項	受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況で評価します。
ＩＣＴ活用	動画アプリを使用し記録を撮ります。
課題に対するフィードバック	授業開始時に課題の確認を行い、提出課題は添削をしてコメントします。
テキスト	『こころとからだを育む　1～5歳のたのしいリトミック』神原雅之　ナツメ社ISBN:9784816365799
参考書・教材	必要に応じて配布します

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション リトミックの考え方と基本(1)　幼児リトミックの目標 [課題(復習)]学修した内容の確認（1h）
2	リトミックの考え方と基本(2)　ビート(拍)、ダイナミクスとテンポ、拍子 [課題(復習)]学修した内容の確認（1h）
3	リトミックの考え方と基本(3)　リズム・パターン、フレーズ、形式 [課題(復習)]学修した内容の確認（1h）
4	リトミックの考え方と基本(4)　ニュアンス、ソルフェージュ [課題(復習・予習)]学修した内容の確認、次の授業に使用する曲の練習（1h）
5	1歳児のリトミック　（テーマ：春、夏、秋、冬） [課題(復習・予習)]学修した内容の確認、次の授業に使用する曲の練習（1h）
6	2歳児のリトミック　（テーマ：春、夏、秋、冬） [課題(復習・予習)]学修した内容の確認、次の授業に使用する曲の練習（1h）
7	3歳児のリトミック　（テーマ：春、夏） [課題(復習・予習)]学修した内容の確認、次の授業に使用する曲の練習（1h）
8	3歳児のリトミック　（テーマ：秋、冬） [課題(復習・予習)]学修した内容の確認、次の授業に使用する曲の練習（1h）
9	4歳児1のリトミック　（テーマ：春、夏） [課題(復習・予習)]学修した内容の確認、次の授業に使用する曲の練習（1h）
10	4歳児のリトミック　（テーマ：秋、冬） [課題(復習・予習)]学修した内容の確認、次の授業に使用する曲の練習（1h）
11	5歳児のリトミック　（テーマ：春、夏） [課題(復習・予習)]学修した内容の確認、次の授業に使用する曲の練習（1h）
12	5歳児のリトミック　（テーマ：秋、冬） [課題(復習・予習)]学修した内容の確認、模擬保育の指導案の作成(未満児）（2h）
13	模擬保育（未満児のリトミックの実践） [課題(復習・予習)]学修した内容の確認、模擬保育の指導案の作成(以上児）（2h）
14	模擬保育（以上児のリトミックの実践） [課題(復習)]学修した内容の確認、模擬保育の振り返り（2h）
15	模擬保育の振り返り（模擬保育の意見交流会をする）とまとめ

時間外での学修	保育現場で役立つ実力を身に付けるために積極的に予習・復習を行ってください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】
受講学生へのメッセージ	積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていきますので、常に体調を整えて遅刻・欠席しないように心がけましょう。 オフィスアワーは光井研究室（A307：A号館3F）で毎週木曜日16:10～16:40です。

【1C6S214】生涯スポーツⅠ	幼児教育学科		3年前期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	日比　千穂		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	NPO法人岐阜県レクリエーション県協会理事９年（2013年～2021年）、社団法人岐阜県レクリエーション協会理事2年（2021年～）、NPO法人大垣市レクリエーション協会理事長７年（2015年～） 岐阜県公立小学校教諭6年		
授業方法	内容に合わせて、教室を使った講義形式と、体育館を利用したレクリエーション実技・演習を行います。 講義・実技共に、指導者としての役割を学ぶために「ロールプレイ」「グループ討議」「発表」の形式を交えます。授業内容によっては、ICTを活用した遠隔授業や課題や自己評価提出、質問等も受付、学習状況を確認、フィードバックを行っていきます。		
到達目標	知識・理解	レクリエーション活動の理論に裏付けられた支援技術を理解する。	◎
	思考・判断・表現	場面や個々の特性に応じたレクリエーション活動を創作できる。	○
	技能	支援技術の方法を効果的に利用し、レクリエーション活動が提供できる。	○
	関心・意欲・態度	レクリエーション活動を通じ、様々な場面で誰とでも笑顔でふれあうコミュニケーションを意識できる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	社会環境や生活環境も目まぐるしく変化し、「新しい生活様式」が根付いてきています。その中で、どの世代においても、健康に対する意識や関心がより一層高まっているといえるでしょう。心の健康・身体の健康のために生涯にわたって気軽に運動や活動ができるレクリエーションの役割が大きくなってきています。レクリエーション活動を通じ、対象者が自主的・主体的に行える心の仕組み、技術の支援方法を理解し、アプローチできる力を身につけていきます。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記小テスト	20	10	-	-	30
実技試験	10	-	10	-	20
発表	-	-	-	5	5
小レポート	-	10	-	5	15
自己評価(毎回)	-	-	5	10	15
受講態度	-	-	5	10	15
合　計(点)	30	20	20	30	100

評価の特記事項	フィードバックとして小テストやレポート提出後、解答の解説やコメントを行います。
ＩＣＴ活用	ICTを活用した自主学習支援（ポータルサイトなど） 状況に応じてICTを活用した双方向型授業
課題に対するフィードバック	授業時間外課題は、次回以降の授業で紹介しコメントする。
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり/レクリエーション支援の理論と方法』(公財)日本レクリエーション協会(1,800円)ISBN:978-4-931180-95-6 2年次「スポーツ・レクリエーション」受講者は購入済み
参考書・教材	

内容

実施回	授業内容・目標
1	「生涯スポーツ」オリエンテーション。「レクリエーション・インストラクター」資格取得理解 ・生涯にわたるスポーツ習慣の重要性がわかり、「新型コロナ感染予防に留意した運動の在り方」と「レクリエーション概論」を振り返る。具体的なレクリエーション活動について、「清流レクリエーションフェスティバル」の概要を理解し、レクリエーション活動の実際について学ぶ。実施種目「マンカラ」 [課題（復習）](1h)「レクリエーションフェスティバル」の概要をまとめる。
2	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論 ・レクリエーション支援におけるコミュニケーションの方法や信頼関係づくりの方法を学ぶ。 [課題（復習）](1h)レクリエーション支援におけるホスピタリティーをどのように表していくと良いかまとめる。
3	自主的・主体的に楽しむ力を高める展開方法（実技）① アイスブレーキングゲームを中心の展開を実施。レクリエーションを展開する中で、心の解きほぐしができていくのを実感できる。 [課題（復習）]（1h)心の解きほぐしがどんなところで感じられたかを既習の理論と照らし合わせて考える。
4	良好な集団作りの理論 ・レクリエーションを通じた良好な集団作りを目指し、集団内のコミュニケーションが段階的にすすめられることを理解する。 [課題（予習）](1h)これまでの生活の中で「居心地の良い集団」「居心地のよかったのはなぜ？」また、「居心地のよくない集団」「居心地のよくなかったのはなぜ？」を振り返ってみる。
5	自主的・主体的に楽しむ力を育む（理論） 前時のプログラムを振り返り、自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法における支援技術やCSSプロセスの活用方法を学ぶ。 [課題（復習）](1h)CSSプロセスの場面を意識した保育実習活動を実践する。
6	自主的主体的に楽しむ力を育む展開方法（実技）② 「モルック」を通じて、目標設定と言葉や表情の活用方法の一体的な実践方法を学ぶ。 [課題（復習）](1h)「モルック」の指導展開について既存学習で振り返る。
7	レクリエーション活動の習得（理論） 「チャレンジ・ザ・ゲーム」から見る体力づくりは、タイムや回数をチームで競うことで、集団への所属や、励まし合いや認め合いが、共感をもたらし、フローの状態の高まりに気付くことができる。 [課題（復習）]（1h)チャレンジ・ザ・ゲームの種目とルールを見直す。（１h）
8	レクリエーション活動の習得（実技）① 「ニチレクボール（ペタンク）」を体験し、目標をもった練習が主体的な取り組みにつながることを体感しながら投球の技術を身につける。ゲームルールを理解し、頭脳と投球の技術を駆使したゲーム展開を楽しむ。 [課題（課題）](1h)ニチレクボールのルールについて

内容	
実施回	授業内容・目標
9	レクリエーション活動の習得（実技）② 「ラダーゲッター」の道具の持つ特性がわかる。投球練習を工夫することで、「やる気」を引き出すことを体感し、投球技術を磨く。ゲームルールを理解し、勝敗を楽しむ。 [課題（課題）](1h)ラダーゲッターのるーるについて
10	レクリエーション活動の習得（実技）③ ・「スポーツテンカ」のルールを理解し、練習・ゲーム・審判を体験する。 [課題（復習）](1h)「スポーツテンカ」のルールを振り返る
11	レクリエーション活動の習得（演習）④ ・レクリエーション指導において、参加者が「元気」になれる5つの支援技術や目標設定をどのように置くと良いのかを学習する。「清流レクリエーションフェスティバル」においての種目がどのような種目が良いのか、自分なりの考えをまとめる。 [課題（復習）](1h)選択したアクティビティーにおいて支援技術や目標設定を意識した支援ができる。
12	レクリエーション活動の習得⑤（演習） ・既習のゲームや、調べたゲームについて、5つの支援技術や目標設定をどのようにおくとよいか演習する。 [課題（復習）](1h)選択したアクティビティーにおいて支援技術や目標設定を意識した支援ができる。
13	小テスト（レクリエーション・インストラクター資格者として知っておきたいことを確認） レクリエーション活動の習得⑤支援実技試験Ⅰ ・生涯スポーツⅠで学んだことを支援実技に活かすことができる。 [課題（復習）](1h)演習発表できるように準備をすすめる
14	レクリエーション活動の習得⑤支援実技試験Ⅱ ・生涯スポーツⅠで学んだことを支援実技に活かすことができる。 [課題（復習）](1h)自己評価と発表者への評価
15	レクリエーション活動の習得⑤支援実技試験Ⅲ ・生涯スポーツⅠで学んだことを支援実技に活かすことができる。 [課題（復習）](1h)自己評価と発表者への評価

時間外での学修	【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：18時間】 毎時間の課題（15h） 地域での活動への参加（３h）－(特非)岐阜県レクリエーション協会(特非)大垣市レクリエーション協会など市町村レクリエーション協会や体育連盟やスポーツ協会など地域主催事業に積極的に参加。市民活動事業の現場でスタッフや参加者として関わり、社会貢献の実践を体験する(事前に参加手続きを各自で行なう)。参加報告を提出する。
受講学生へのメッセージ	服装はTPOに合わせることが大切です。学習内容に合わせたふさわしい服装を心がけてください。現場での実践につながるよう明るい表情やわかりやすい表現方法を学んでいきます。 授業内容が会場・物品の都合で前後することもあります。 オフィスアワーは、授業後10分間とします。

【1C6A215】生涯スポーツⅡ	幼児教育学科		3年後期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	日比　千穂		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	NPO法人岐阜県レクリエーション協会理事9年（2013年～2021年）社団法人岐阜県レクリエーション協会理事2年（2021年～)NPO法人大垣市レクリエーション協会理事長6年（2015年～） 岐阜県公立小学校教諭６年		
授業方法	内容に合わせて、教室を使った実技・演習、体育館・屋外を利用したレクリエーション実技・演習を行います。講義・実技共に、指導者としてのやくわりを学ぶため、「ロールプレイ」「グループ討議」「発表」の形式を交えます。授業内容によっては、ＩＣＴを活用した遠隔授業や自己評価提出、質問等も受付、学習状況を確認し、フィードバックを行います。		
到達目標	知識・理解	年齢や体力・技能を考慮した活動を理解する。	○
	思考・判断・表現	発達の特性を生かした指導計画を作成できる。	○
	技能	ゲームの特性を理解し、楽しいの伝達ができる。	○
	関心・意欲・態度	積極的に関わり合いを持ち、社会に貢献する姿となることができる。	◎
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	健康への関心は、高まっています。適度な運動は、心の開放、体力維持・増進につながります。レクリエーションを学び、理論的に技術的にコミュニケーション力を高め、対象者に合わせた自主的主体的なやる気を引き出せる企画・プログラムを実践できる力としていきます。目的に合わせたゲームやニュースポーツを中心に実践し、アクティビティーに関する知的理解と指導法の修得について学び、実践できる指導者をめざします。

観点別評価

評価の観点 / 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
実技試験	5	-	5	10	20
自己評価(毎回)	10	-	10	-	20
受講態度	-	10	-	20	30
レポート(2回)	-	10	-	-	10
発表（グループ発表含む）	5	-	5	10	20
合　計(点)	20	20	20	40	100

評価の特記事項	フィードバックとして、小テストやレポート提出後、解答の解説やコメントを行います。
ＩＣＴ活用	ＩＣＴを活用した自主学習支援（ポータルサイトなど） 状況に応じてＩＣＴを活用した双方向型授業
課題に対するフィードバック	授業時間外課題は、次回以降の授業で紹介しコメントする
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』(公財)日本レクリエーション協会(1,800円)ISBN:978-4-931180-95-6 2年次「スポーツ・レクリエーション」受講者は購入済み
参考書・教材	

内容

実施回	授業内容・目標
1	資格取得にむけたガイダンス、 レクリエーション支援の実施１プログラム①（実技・清流レクリエーションフェスティバル担当種目のプログラム作成と演習①）安全管理に十分配慮し、道具の扱い方、動線ルールを考え、配置図を作成する。 岐阜県での代表発表者の選定を行う。 ・「清流レクリエーションフェスティバル」が行政の中でどのように位置づけられているのか。また、どのうような役割を担っているのかを調べる。（1h）
2	レクリエーション支援の実施２プログラム②（清流レクリエーションフェスティバル担当種目のプログラム作成と演習②） ・レクリエーションの活動のアレンジやコミュニケーション技術を学び、活用し、参加者がより主体的に参加できる声掛けを意識したロールプレイングを行う。 ［課題（復習）］段階的なアレンジがどのようなことに気を付けておこなうとよいかまとめる（1h）
3	（事業参加①）事業参加10月8日（土）［岐阜メモリアルセンター］清流レクリエーションフェスティバル① ・レクリエーション協会や種目団体によるレクリエーション活動の実際を知る。 ［課題（復習）］軽スポーツについて振り返る。（1h）
4	（事業参加②）事業参加10月8日（土）［岐阜メモリアルセンター］清流レクリエーションフェスティバル② ・レクリエーション協会や種目団体による活動支援を体感する。 [課題（復習）]参加者の方々の様子や、それにかかわる一般ボランティアの方々の様子で気づいたことをまとめる。（1h）
5	（スタッフ参加①）スタッフ参加10月8日（土）［岐阜メモリアリセンター］清流レクリエーションフェスティバル③ ・参加者が気持ちよく参加でき、また、参加者・スタッフ共に安全配慮に十分注意した活動をすることができる。 ［課題（予習）］担当コーナーの準備確認・リスクマネジメントの視点を持って配布物確認（時間・トイレ・手洗い場所・休憩場所・飲食場所・救護場所など）（1h）
6	（スタッフ参加②）スタッフ参加10月8日（土）［岐阜メモリアリセンター］清流レクリエーションフェスティバル ・打ち合わせや準備を活かし、参加者とのコミュニケーションをとり、励ましや共感を言葉がけを意識し、心地よい場の提供できるホスピタリティーあふれる対応を目指す。 ［課題（復習）］[清流レクリエーションfestival]報告書作成次回提出（1h）
7	レクリエーション支援の実施３　評価及び改善① グループワーク・プログラムを用いて、清流レクリエーションフェスティバルを振り返る。反省会を持ち、それぞれのグループのこれまでの活動発表を準備する。 [課題（復習）］発表の担当の部分をまとめ、準備する。（1h）
8	レクリエーション支援の実施４　評価と改善② 清流レクリエーションフェスティバルの活動について、まとめ、学習した内容をグループで発表する。 [課題（復習）]今後のレクリエーション活動においてなにを大切にしていきたいのかをまとめる。

内容	
実施回	授業内容・目標
9	モデルプログラムの実施①（キンボール） ・キンボールを体験しながら、導入から展開まとめまでの一連の流れの中で、自主的主体的にレクリエーション活動を進める、技法や理論を振りえる。 ［課題（復習）］本時での実技と技法・理論について振り返り、今後の活用方法をまとめる。（1h）
10	モデルプログラムの実施②（タスポニー） ・レクリエーション活動を自主的主体的にすすめる展開方法を総合的に実践する。 [課題（復習）]自主的・主体的にすすめる展開方法で一番大切にしたいことをまとめる（1h）
11	モデル・プログラムの実施③（ネイチャーゲーム） ・「生きる」を学ぶ目的としたゲームの中で、虫や植物たちの自然の中で生きる力を感じるプログラムを体験する。 [課題（復習）]インターネットで、シェアリングネイチャーについて調べ、どう利用できそうかまとめる。
12	レクリエーション支援の実施５　プログラム立案③（実技演習の立案・評価・改善） ・生涯スポーツⅠ・Ⅱを通じて学んだコミュニケーション技術や支援技術、アレンジ法を一体的に実施できる実技演習のプログラムを立案する。 ［課題（復習）］プログラムで担当となった部分を技法や理論を盛り込んで発表できるようにする。（1h）
13	レクリエーション支援の実施６　科目終了判定（コミュニケーション・ゲームの評価・改善）実技演習Aグループ ・学生を参加者にみたてて、実際のプログラムを展開する。 ［課題（復習）］コミュニケーション・ゲームについて振り返りをする。（1h）
14	レクリエーション支援の実施７　科目終了判定（コミュニケーション・ゲームの評価・改善）実技演習Bグループ ・学生を参加者にみたてて、実際のプログラムを展開する。 ［課題（復習）］コミュニケーション・ゲームについて振り返りをする。（1h）
15	レクリエーション支援の実施８　科目終了判定（コミュニケーション・ゲームの評価・改善）実技演習Cグループ ・学生を参加者にみたてて、実際のプログラムを展開する。 ［課題（予習）］担当するコミュニケーション・ゲームを十分に理解し発表する準備を行う。（1h）

時間外での学修	【この科目で求められる望ましい授業外での総学修時間：18時間】 （特非）岐阜県レクリエーション協会（特非）大垣市レクリエーション協会など地域レクリエーション協会主催事業に積極的に参加。市民活動事業の現場でスタッフや参加者として関わり、社会貢献の実践を体験する（事前に参加手続きを各自で行なう）。参加報告提出すること（3h）
受講学生へのメッセージ	スポーツ要素を多く含む激しい動きもあります。活動しやすい服装（体育館シューズ・スカート不可）で積極的に参加し、現場での実践につながるよう明るい表情やわかりやすい表現方法を学んでいきます。体育館の利用状況や種目道具の使用状況で授業内容の入れ替えがあります。 オフィスアワーは、授業後10分間とします。

【1C6A216】障がい者スポーツ演習	幼児教育学科		3年前期	
	1単位	選択必修	演習	30時間

教員	垣添　忠厚・日比　千穂・川島　民子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	川島：特別支援学校教諭　垣添：特別支援学校教諭（18年）、県行政職(5年)		
授業方法	講義及び実技を通して、障がいのある方に対する深い知識を持った上で適切なパラスポーツの普及について考えます。また、学外実習として障がい者との交流を目的とし、6/5（日）に予定されている岐阜県障がい者フライングディスク春大会にボランティアスタッフとして参加します。詳細は授業内にて説明します。資格取得希望者に欠席があった場合、別途ボランティアへ参加、講義内容に関するレポートの提出が必要になります。		
到達目標	知識・理解	各種目の競技特性を理解することができる。	◎
	思考・判断・表現	指導員として、状況を即判断し、主体的に活動することができる。	○
	技能	学んだ知識や技能を競技や地域活動に活かすことができる。	◎
	関心・意欲・態度	実践活動の中で、仲間と協力することができる。	○
	備考	◎･○･△の記号は、DP･到達目標との結びつきの強さを示しています。	

授業内容	障がいの基本内容を理解し、障がい者のスポーツ導入に必要な基本知識・技術を身につけます。この科目の単位取得（ただし実習は必須）により、日本障がい者スポーツ協会公認の初級障がい者スポーツ指導員資格を取得することができます。障がい者を対象としたスポーツクラブまたはスポーツ大会に参加し、その普及・発展をはかる際に必要となる知識と指導及び対応スキルの獲得を目指します。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
レポート（毎回）	20	-	-	-	20
自己評価（毎回）	-	10	10	-	20
受講態度・様相	-	-	10	20	30
現場実習	10	10	10	-	30
合　計(点)	30	20	30	20	100

評価の特記事項	
ＩＣＴ活用	障がい者スポーツに関する動画映像を視聴し、理解を深めます。
課題に対するフィードバック	現場実習参加後のレポートをもとに、学生同士で意見交流を行います。
テキスト	『障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）-2020年改訂カリキュラム対応-』公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会　編　株式会社　ぎょうせい(2,640円)ISBN:9784324108031
参考書・教材	全国障害者スポーツ大会競技規則集、ほか必要に応じて資料を配付します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス/スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質（担当教員：垣添） ・スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレイヤーズファーストの視点やプレイヤーとともに学び続ける姿勢について学ぶ。 【課題（復習）】学習内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h)
2	障がい者スポーツの意義と理念(担当教員：垣添) ・本科目受講の目的と授業計画を理解する。 ・障がい者にとってスポーツの意義と理念を理解する。 【課題（復習）】学習内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h)
3	障がい者スポーツに関する諸施策（担当教員：垣添） ・まとめたレポートをもとにグループで交流し学びを共有する。 ・わが国の障がい者スポーツに関する施策を学ぶ。 【課題（復習）】学習内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h)
4	コミュニケーションスキルの基礎(担当教員：垣添) ・障がい者スポーツ指導員として必要なコミュニケーションやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。 【課題（復習）】学習内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h)
5	安全管理(担当教員：日比) ・スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。 【課題（復習）】学習内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h)
6	知的障がい（発達障がいを含む）の理解(担当教員：川島) ・知的障がいや発達障がいの特性や実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【課題（復習）】学習内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h)
7	ボランティア参加の説明/各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫１（担当教員：垣添） ・6/5に参加するフライングディスク大会の役割を知る。 ・フライングディスクの競技の実践を通して、指導員としての留意点・接し方について学ぶ。 【課題（復習）】障がい者スポーツ指導員としての留意点についてレポートにまとめる。（1h～2h)
8	身体障がい（視覚・聴覚障がい）の理解（担当教員：川島） ・視覚障がい及び聴覚障がいの特性や実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【課題（復習）】学習内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h)
9	（6/5）学外実習：岐阜メモリアルセンターでの実習　6/10分補講 障がいのある人との交流１(引率教員：垣添) ・障がい者とのふれあいを通じ、障がい者にとってのスポーツの必要性・意義・価値を学ぶ。 【課題（復習）】学習内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h)
10	（6/5）学外実習：岐阜メモリアルセンターでの実習　6/18分補講 障がいのある人との交流２(引率教員：垣添) ・障がい者とのふれあいを通じ、障がい者にとってのスポーツの必要性・意義・価値を学ぶ。 【課題（予習）】フライングディスクのルールや特徴について調べる。
11	身体障がい(肢体不自由）の理解（担当：川島） ・身体不自由の特性や実際のスポーツ活動場所で活かせる肢体不自由の障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【課題（復習）】学習内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h)

内容	
実施回	授業内容・目標
12	精神障がいの理解（担当教員：川島） ・精神障がいの特性や実際のスポーツ活動場面で活かせる精神障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【課題（復習）】学習内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）
13	全国障害者スポーツ大会の概要（外部講師・川島） ・大会の基本理念や概要、大会開催の目的や意義について学ぶ。 【課題（復習）】学習内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。（1h～2h）
14	障がい者スポーツ推進の取り組み（外部講師・川島） ・資格を取得した後に、地域で行われている教室や大会等に積極的に関われるように、地域の障がい者スポーツ振興の現状について学ぶ。 【課題（復習）】障がい者指導員のあり方についてまとめ、配布された資料を基に必ず文献等に触れること（1h～2h）
15	（6/5）学外実習：岐阜メモリアルセンターでの実習　(7/22分補講) 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫２(引率教員：垣添) ・障がい者スポーツ競技のルールや用具及び運営に関する指導員の役割について学ぶ。 【課題（予習）】体験を通して学んだことをレポートにまとめる。（1h～2h）

時間外での学修	原則的には、講義内容は各時間ごとに完結した内容です。毎回の内容を確実に吸収して、着実に指導者としての資質を身につけてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】
受講学生へのメッセージ	障がいのある方々のスポーツに対するニーズは年々高くなっています。障がい者スポーツの理解を深め、今年度に開催が延期された東京パラリンピックを盛り上げ、障がいのある方々の健康維持・増進も含めた余暇活動の充実に貢献しましょう。 オフィスアワーは研究室（H203：H号館2F）で毎週金曜日12:15～12:45です。

【1C6A117】特別支援教育研究	幼児教育学科		3年前期	
	2単位	選択必修	講義	30時間

教員	川島　民子		
資格・制限等	特になし		
実務家教員	学校教員25年		
授業方法	講義、ビデオ視聴、授業のテーマに沿ったグループディスカッション等で進めていきます。活動後の振り返りやレポートにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行います。		
到達目標	知識・理解	特別支援教育の理念と概念を理解し、高度な知識と技能を身に付けることができる。	◎
	思考・判断・表現	一人ひとりの教育的ニーズを把握し、そのニーズにあった保育・教育について考える。	○
	技能	子どもの発達や障害特性のアセスメントについて学び、保育・教育に活用することができる。	◎
	関心・意欲・態度	子どもの発達や教育的ニーズに対する支援についてまとめたり、発表したりすることができる。	○

授業内容	特別支援教育や実習での学びを踏まえて、一人ひとりの子どもの教育的ニーズを確かめ、そのニーズに沿う保育・教育を展開していくための考え方や手立てを学びます。

観点別評価

評価方法＼評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
筆記試験	30	10	20	-	60
発表・レポート	-	5	10	5	20
自己評価	5	-	5	-	10
受講態度	-	-	-	10	10
合　計(点)	35	15	35	15	100

評価の特記事項	３分の１以上欠席した者には定期テスト受験資格がありません。
ＩＣＴ活用	
課題に対するフィードバック	活動後の振り返りやレポートにより、個別に返答、もしくは全体の場でフィードバックを行います。
テキスト	『『子どもと保護者のココロに寄り添う！エピソードで学ぶ！特別支援教育AtoZ』』松村　齋　明治図書(1,860円)ISBN:ISBN-10:4181226107
参考書・教材	特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領。授業時に資料を配布します。

内容

実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法 特別支援教育に関する復習をする。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
2	「特別支援教育」について：実習などで出会った子どもと先生のかかわりの様子を思い出し、個別の配慮について考える。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
3	乳幼児期から児童期の発達とアセスメントについて（１）：発達検査やチェックリストから観察の観点について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
4	乳幼児期から児童期の発達とアセスメントについて（２）：絵画語彙検査等を学び、幼児期から児童期にかけての知的発達や言語発達について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
5	自閉スペクトラム症児への支援について：事例を通して、特性の理解と保育での支援や配慮について学ぶ [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
6	学習障害児への支援について：読み書き検査や疑似体験を通して、特性の理解と保育での支援や配慮について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
7	ADHD児への支援について：事例を通して、特性の理解と保育での支援や配慮について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
8	発達性協調運動障害児への支援について：疑似体験を通して、特性の理解と保育での支援や配慮について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
9	その他特別な配慮を要する子どもの理解と支援について：複雑で多様な支援を必要とする子どもの理解を深め、保育での支援や配慮について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
10	事例を通して学ぶ：事例を通して、課題の把握と背景を見極める視点を学び、保育での支援や配慮について考える。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
11	特別な配慮を要する子どもの保育の実際（１）：保育所等での支援体制（個別の指導計画、校内委員会等）について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
12	特別な配慮を要する子どもの保育の実際（２）：発達を促す環境や子ども同士の関り合いについて学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
13	保護者や家族に対する理解と支援：保護者支援の進め方、留意点などを実践例より学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
14	関係機関との連携について：療育センターや発達支援センターおよび小学校等との連携について学ぶ。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）
15	特別支援教育についてまとめ：特別支援教育に関する話題をもとに、保育・教育者として保育・教育のあり方について考える。 [課題（準備）]配布された資料を当日中に必ず復習し、関連する文献に触れること。（３～６ｈ）

時間外での学修	特別支援教育に関する当事者の著書を数冊熟読し、当事者の思いを理解できる保育者になれるよう心掛けてください。

受講学生へのメッセージ	幼稚園等では特別な教育的ニーズを有する園児児童生徒等の支援は大きな柱になっています。積極的に学校等へ出向いて実際の様子を実感してください。オフィスアワーは研究室にて水曜日の15：10～です。